

6. 視察研修

視察研修先、日程、参加者及び「視察研修報告書」は以下の様である。

(1) 見晴台学園・見晴台学園大学

① 参加者

11/9 (火)	戸田三保子 溝口和子 土井 香陽子 上野 陽介 三浦 敬一朗 勝 伸博 伊藤貴治 志村美和	春日井市肢体不自由児・者父母の会会長 愛知県立春日井高等特別支援学校校長 春日井市障がい福祉課 春日井市教育委員会学校教育課 〃 春日井市青少年子ども部部长 春日井市議員 NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR 理事長
11/10 (水)	石黒丞 服部浩子 深見憲司 甲斐大喜	春日井市社会福祉協議会総合支援課課長 手をつなぐ育成会会長 春日井市子ども政策課次世代育成支援担当職員 春日井市文化・生涯学習課
11/11 (木)	佐藤秀樹 堀江侑帆 尾崎律子 波多野茜	愛知県立春日台特別支援学校校長 春日井市教育委員会学校教育課 春日井市教育委員会学校教育課 愛知みずほ短期大学2年 (田中ゼミ)

② 研修プログラム

10:30	(集合) 自己紹介 視察研修の趣旨 見晴台学園の説明 (パワーポイント) ★ 資料：学園の概要、授業略案等	----- 田中 (コーディネーター) ----- 藪
10:50	見晴台学園内見学 授業 生徒との懇談	----- 加藤、青木
11:20	見晴台学園教員・父母との懇談	----- 藪
11:50	(見晴台学園から見晴台学園大学へ移動---約 100m)	
12:00	見晴台学園大学学生との懇談 見晴台学園大学の説明と懇談 ★ 資料：大学の概要、授業概要等	----- 大竹、平子
12:30	(解散)	

③ 研修報告

視察研修報告書	
名前（ 石 黒 丞 ）	
提出日（ 令和3年11月22日 ）	
視察日	令和3年11月10日
訪問先	見晴台学園・見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町1911
視察日程	10:30 見晴台学園内見学 11:50 見晴台学園大学の見学
対応者	見晴台学園 加藤さん / 見晴台大学 大竹さん、平子さん
視察内容	見晴台学園の説明（動画を用いた学園の説明） 見晴台学園内見学（授業及び施設内の見学） 見晴台学園教員・父母との懇談（①生徒の親から利用前～現在に至る説明を受ける。②教員への質疑応答） 見晴台学園大学の見学（生徒への質疑応答）
学んだこと	公の学校になじめない生きづらさを抱える生徒は、ともすれば家族が一人で抱えてしまったり、行き場がなくひきこもり化するリスクがある中で見晴台学園のような行き場があることは重要なことである。 見晴台学園の生徒の親のエピソードを聞いて、個々の「学び」にはそれぞれの事情があり、「学び」を実現するためには多様な学び方・学ぶ場所が必要であることを感じた。一方で個々のニーズは様々で事業化すること困難さも感じた。 学ぶために大阪から出てきて一人暮らしをしている大学生がいた。学びは自立の原動力になっていることに気づいた。
その他	

視察研修報告書	
春日井市役所 青少年子ども部 勝 伸博	
令和3年11月11日	
視察日	令和3年11月9日（火）10時30分～12時30分
訪問先	見晴台学園・見晴台学園大学
住所	見晴台学園：名古屋市中川区柳森町1911番 見晴台学園大学：名古屋市中川区柳森町2708番
対応者	見晴台学園 加藤氏、生徒保護者 山本氏、田中良三氏、
視察内容	<p><u>1 見晴台学園</u> ※学生がナレーションする動画にて説明あり</p> <p>(1) 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置・運営者 NPO 法人学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会（すすめる会） 《運営財源》自立訓練（生活訓練）事業、就労移行支援事業、 地域活動支援事業、納入授業料等 ・学園の所在地経緯 1990年設立 1990-1994年 名古屋市南区 1995-2004年 刈谷市 2005年-現在 名古屋市中川区（すすめる会の事務局所在地は、南区） ・在籍人数 16人（愛知県14人、岐阜県・三重県各1人、うち名古屋市8人） ・スタッフ人数 常勤3名、非常勤・パート11人 ・中等部3年間、高等部5年間（本科3年・専攻科2年） （専攻科2年は職業準備教育課程） <p>(2) 取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等部、高等部の学生がともに、絵画・工作活動を実施 ・高等部専攻科学生は東海道57次WALKに出かけていた（3泊4日） ・専攻科で研究論文を作成（コマーシャル、映画等を素材に） <p>(3) 利用生徒の保護者との意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親は子どもを幸せにすることはできない。子どもには壁を乗り越える信念、力をつけてほしい。」 ・「子どもは自分が何をすればよいか分かれば動くことができる。」 ・当学園では、月に1回、保護者が集まる会があり、安心感につながっている。卒業後も「るっく」に入会し、同様の場がある。 <p><u>2 見晴台学園大学</u> ※学生3名、スタッフ1名との懇談会あり</p> <p>(1) 概要</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・設置・運営者は1と同じ。2013年設立、教養学部現代教養学科 《運営財源》地域活動支援事業、納入授業料等 ・懇談会に参加した学生3名の直近前歴は、市立高校在籍、見晴台学園卒等。他県から入学し、一人暮らしをしている学生もいる。 <p>(2) 取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談の中で、グループで限られた予算で昼食の弁当作りをすること（現物も見学）、小坪遊著『「池の水」を抜くのは誰のため?』新潮新書を活用した授業の様子、「情報と生活」の授業でパソコンに興味を持てたこと、フィールドワークが楽しいなどの話があった。
学んだこと	<p><u>I 見晴台学園</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動画説明中、学生の発言に「自分は働きたいのか、もっと学びたいのかを考えたい」とあった。このような場面は、状況は異なるのかもしれないが、私は高校卒業時に経験し、1年間就職した後、進学した。自らの進路を決めるにあたってのきっかけ（家庭環境、友人関係での会話等）が薄い場合、とても迷うものだと考える。従来の学校システムが決められた年限の中で、次の段階を自ら判断できない場合、一旦当たり前と呼ばれるシステムから外れるしかない。そのことが家庭・社会において当たり前となる「空気」「制度」があれば、もっと生きやすくなるのではないかと強く感じる。 2. 利用児童生徒の保護者、教員が定期的に集まり意見交換できる場も重要なしくみとなっており、家庭と学園がともに児童生徒を継続して見守ることにつながっているものと考ええる。 3. 子どもの身近な場所での居場所づくりにおいては、保護者の方も周辺住民の理解も必要と考えており、地域関係者、各地域資源をコーディネートするための行政の役割も大きいのではないかと考える。 <p><u>II 見晴台学園大学</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多くの教授陣が所属し、授業計画（シラバス）も明確である。授業目標も明示されており、学校教育法第1条校と同様のスタイルをとりつつも、個々の学生の状況を踏まえた授業の工夫が見られる。生涯学習の場として多様な形態の検討にあたり、学問追求型の大学、身近な公民館等の公共施設を活用した講座・教室型のあり方などを比較調査研究する必要がある。 2. 学校生活、職業生活という主たる生活スタイルに合わせた生涯学習の場・活動内容のあり方について、障がい者利用も含めて既存資源の再編活用も視野に整理検討すべきと考える。⇨高齢者向け熟年大学との対比も
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後予定されている東京都町田市の2つの視察研修の内容は、今回の見晴台学園、見晴台学園大学の形態、利用者との比較調査による生涯学習の場・活動内容のあり方等の検討において、効果的であると考えている。 2. 快く視察を受け入れていただいた学園・学園大学関係者に感謝申し上げます。

視察研修報告書	
名 前 (佐藤 秀樹) 提出日 (令和 3 年 1 1 月 2 2 日)	
視察日	令和 3 年 1 1 月 1 1 日 (木)
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
視察日程	10:30 視察研修の趣旨説明 見晴台学園の説明 10:50 見晴台学園内見学 (授業) 11:20 見晴台学園 父母との懇談 12:00 見晴台学園大学生との懇談
対応者	見晴台学園大学 学長 (愛知県立大学名誉教授) 田中 良三 見晴台学園 職員 加藤
視察内容	見晴台学園の経緯とここで学ぶ児童生徒の授業の見学 見晴台学園の施設の見学 見晴台学園に通う生徒の保護者 (母親) との懇談 見晴台学園大学の学生さんとの懇談
学んだこと	<p>発達や学習上の困難を抱える児童生徒、学生が学べる場所として見晴台学園や見晴台学園大学があることは知っていましたが、実際に学園や学園大学を見学したことは、初めてでした。そこで学ぶ児童生徒、学生さんの姿を見られたこと、また、この通っている子どもさんの保護者の方の話を聞けてとことはとても貴重な経験でした。</p> <p>「自分らしくゆっくり学べる」場所としてこの学園があること、そして高等部も 5 年制で本科 3 年の後に 2 年の専攻科があることで、しっかり学びたいことを学べる場所であることが分かりました。また、学園を卒業した後にも「学びの場」として大学もあることは、学びたい生徒にとってはとても貴重な場だと感じました。</p> <p>また、授業の名称も「国語」「数学」「社会」「理科」でなく「言語と数量」「自然と社会」「技術と人間」などとなっていて、教科の名称から受ける苦手意識を受けないようにする配慮もされていることもとてもよい取り組みだと思いました。</p>
その他	特になし

視察研修報告書	
名前 (土井香陽子)	
提出日 (2021年11月 日)	
視察日	2021年11月9日 ~ 11月9日
訪問先	貝晴台学園 貝晴台学園大学
住所	名古屋市中央区柳森町19-1、名古屋市中央区柳森町270番地 相倉ビル2F
視察日程	10:30 ~ 11:50 貝晴台学園 視察 11:50 ~ 12:30 貝晴台学園大学 視察
対応者	貝晴台学園大学学長、貝晴台学園職員、貝晴台学園大学職員
視察内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貝晴台学園、貝晴台学園大学の説明。 ・ 学園、大学の見学、授業の参観 ・ 学園の王徒、保護者(母)との懇談、大学の学生との懇談
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30年以上も前、LD、PDDがまだ社会的に認知されていない時代に親の会が設立。LTCやスクールが貝晴台学園。また、PDD等で特別な支援の必要のない子どもが学ぶ場として、2013年に貝晴台学園大学が設立。 ・ 以前は療育科長、発達科長が特許者ばかりだったが、現在の在籍者は科長が特許者が多い。 ・ 普通科、特別支援学級、特別支援学校では適応はなかなか、不登校と対応してはいる。児童も、個別の支援や配慮をされて学習が出来るように通えている。(自力通学者が多く、その支援も受けている)。 ・ 貝晴台学園への通学が、中学校から出席日数とカウントされる。(在籍の中学校校長から) ・ 講師は半年に一度、講師同士の交流会をやり、支援の向上に努めている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園での評定、評定は男女で分けられる。王徒本人、保護者、学園それぞれから、がんばること、できるようになること等を文章でつづらせたものを王徒本人に送っている。 ・ 王徒や学生への支援だけではなく、保護者への支援も必要。保護者同士の交流や情報交換の場を体制化できているのは、人数が多いからかな。

*研修後、できるだけ早く、この様式(A4)1枚のデータシートを、事務局 まで提出してください。「報告書」に収録させていただきます

視察研修報告書

戸田三保子

2021.11.18

視察日	2021年11月9日
訪問先	見晴台学園・見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町1911・名古屋市中川区柳森町2708
視察日程	10:30 見晴台学園（説明、見学、親との懇談） 12:00 見晴台学園大学（説明、学生との懇談）
対応者	加藤様
視察内容	見晴台学園 <ul style="list-style-type: none"> ・活動を動画で視聴し、設立の主旨・経過・活動を聞く。 ・中等部の授業参観、その後母親の方と懇談する。 見晴台学園大学 <ul style="list-style-type: none"> ・3名の大学生から日頃の活動を聞く。 ・当日の活動「お弁当作り」の内容を聞き、各自自作のお弁当を見せてもらう。
学んだこと	少人数で、一人一人に対応した学習の様子を見学し、ゆっくりと自分のペースで学ぶ良さを感じました。 大学では、障がいのある人が自分らしく豊かに生きていくこと、そのための学びを伺いとても大切なことだと思いました。
その他	専攻科の人たちが、10年引き継いでの東海道53次WALKは、事前学習や準備も大変だと思いますが、本番ではたくさんの方の協力で実践されていて、とても素晴らしい活動と思いました。

視察研修報告書

服 部 浩 子

令和3年11月16日

視察日	令和3年11月10日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住 所	(見晴台学園) 名古屋市中川区柳森町1911番 (見晴台学園大学) 名古屋市中川区柳森町2708番
視察日程	①自己紹介→②視察研修の趣旨→③見晴台学園の説明→④見晴台学園内見学→⑤見晴台学園教員、父母との懇談→学園から大学へ移動→⑥見晴台学園大学学生との懇談
対応者	田中先生、加藤先生、大竹先生、平子先生
視察内容	③見晴台学園の紹介動画の視聴 みはらしだいまつりで個性豊かな生徒さんが生き生きと活動している姿が印象的。 ④見晴台学園授業見学（英語） 5人という少人数で学年にばらつきがあるが、生徒さん全員が楽しく取り組んでいる様子が窺えた。 ⑥見晴台学園大学学生との懇談 自分でしっかり考え話をしている姿が頼もしかった。
学んだこと	知的に障がいのある子どもの進学先は高等支援学校か特別支援学校と思っていましたが今回視察研修させていただいた見晴台学園のようなフリースクールという選択肢もあるということを知りました。成長の歩みがゆっくりな子ども達にとってゆっくり学べる学校は必要であると感じました。
その他	現在27歳のダウン症の娘が特別支援学校在学中に「私も大学に行きたい!」と言いました。当時は見晴台学園大学の存在も知らず、知的に障がいのある娘に行ける大学はないと思い、学力面で無理なので諦めるようにと話しました。知っていたら大学に行きたいという娘の夢を諦めさせるのではなく見晴台学園大学を目指して頑張れたのではないかと思います。

視察研修報告書	
名前（溝口 和子） 提出日（令和3年11月25日）	
視察日	令和3年11月9日（火）
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町 1911 番地 中川区柳森町 2708 番地板倉ビル 2F
視察日程	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 視察研修の趣旨 3 見晴台学園の説明 紹介動画の視聴 4 見晴台学園の見学 施設内見学、美術の授業の参観 5 父母との懇談 6 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	田中良三先生、加藤先生
視察内容	<p>見晴台学園の概要について説明を聞く。視察当日、専攻科の生徒が東海道 53 次 WALK に出かけて不在のため、紹介動画をわざわざ作成してくださった。授業参観は美術の授業を見せていただいた。中学部、高等部本科の生徒がそれぞれの課題に向かい合って制作に取り組んでいた。廊下や教室の掲示物に生徒の作品が工夫されて掲示されていた。</p> <p>父母との懇談では、学園に高等部から入学された保護者の話を聞いた。一卵性双生児それぞれの個性が生かせる進学先を選ばれたこと、この学園に通ってよかったことなどを語ってくださった。父母の会が毎月あり父母と教員とで運営委員会をもっているということである。</p> <p>大学では、脳トレ cooking でお弁当作りをしていた学生さんたちと懇談し、大学で何を学んでいるのかなど聞くことができた。懇談後は作ったお弁当を見せてもらった。</p>
学んだこと	<p>生徒さんたちが、この学園を安心できる居場所として楽しんで学習している姿を見て、子供たちの学びの場は一人一人の個性にあった場所がいろいろあっていいんだということを実感しました。それぞれの個性や目標をしっかりと把握して、それぞれに合った居場所で自分の力を発揮することの重要性を改めて感じました。</p>
その他	<p>専攻科の生徒さんからもお話を伺いたかったです。紹介動画大変わかりやすかったです。お忙しい中見学させていただきありがとうございました。</p>

(春日井市役所職員)

視察研修報告書 上野、三浦、 名前（堀江、尾崎） 提出日（令和3年11月24日）	
視察日	令和3年11月9、11日 —月—日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町
視察日程	10:30 見晴台学園の説明 10:50 見晴台学園内見学 11:20 母との懇談 12:00 見晴台学園大学生との懇談
対応者	加藤様
視察内容	<p>見晴台学園では、学年の成り立ちや取り組み内容の説明を受けた後に、実際の授業風景を教室内で視察した。視察後に利用者の母と懇談し、学園を利用するに至るまでの経緯や他の進路との比較で感じた学園の良さなど、保護者の実際の意見を聞いた。</p> <p>見晴台学園大学では、利用者4名と懇談し、大学利用の経緯や卒業後の進路の希望などを聞いた。</p>
学んだこと	<p>当時者主体のプログラムを積極的に取り入れることで、授業で教わる知識だけでなく、社会生活に必要な知識も得ることができている。また、保護者と学園が積極的に協働することで、当事者のペースに合わせた学習機会の提供が可能となることを学んだ。</p> <p>高等部における入園のスムーズさや、中等部においては出席と認められるなど、原籍校との連携を密にすることの重要性を学んだ。</p>
その他	

*研修後、できるだけ早く、この様式(A4)1枚のデータを、事務局 まで提出してください。「報告書」に収録させていただきます

視察研修報告書	
名前（ 深見 健司 ） 提出日（ 令和 3 年 11 月 29 日 ）	
視察日	令和 3 年 11 月 10 日 ～ 月 、 日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市 中川区 柳森町
視察日程	10:30～ 視察研修の趣旨、見晴台学園について説明 10:50～ 見晴台学園内見学 11:20～ 見晴台学園 父母との懇談 12:00～ 見晴台学園大学 学生との懇談
対応者	見晴台学園 田中氏、加藤氏
視察内容	見晴台学園、見晴台学園大学を訪問し、実際の授業の様子を見学することや、学園に通う学生やその父母と懇談することで、障がい者の生涯学習について行政としてできることは何かを感じ取る。
学んだこと	見晴台学園、見晴台学園大学は5年間の高等部、その後に大学があることで、障がい者にとって進路の選択肢が増え、「もっと学びたい」と思う学生の思いに応えている。 父母との懇談の中で、「見晴台学園は5年間で少しずつ社会へ適合していく勉強ができる」との話や「発達に障がいのある児童が早く社会に出ることになってしまうことに違和感をもっていた」との話があり、障がい者にとって、居心地の良い場所であるだけでなく、自分で進路を選ぶことができる環境が大切であると感じた。
その他	

※研修後、できるだけ早く、この様式（A4）1枚のデーターを、事務局 まで提出してください。「報告書」に収録させていただきます

視察研修報告書	
名前（ 甲斐 大喜 ） 提出日（令和3年11月30日）	
視察日	令和 3 年 11 月 10 日 月 日
訪問先	見晴台学園、見晴台学園大学
住所	名古屋市中川区柳森町
視察日程	10：30 ～ 10：50 視察研修の趣旨、見晴台学園の説明 10：50 ～ 11：20 見晴台学園内、授業の見学 11：20 ～ 11：50 父母との懇談 12：00 ～ 12：30 見晴台学園大学学生との懇談
対応者	田中先生 見晴台学園 加藤さん
視察内容	冒頭に見晴台学園の概要を説明していただき、その後実際に授業を行っている様子を見学した。 学園の学生の父親との懇談では、子どもを見晴台学園に通わせることを決めた経緯などのお話があった。 見晴台学園大学の学生との懇談では、今学生たちが学んでいることや、将来についてどのように考えているかなどのお話があった。
学んだこと	今回の研修で特に印象的だったのは見晴台学園が学生のペースに合わせて無理なく学ぶ環境を用意している点である。 学生の父親との懇談で、子どもの義務教育後の進路をかんがえるにあたり、公立の特別支援学校は規律の徹底などかなり高いハードルが課せられ、自分の子どもにとって本当に適した環境なのだろうか、という考えから見晴台学園への入学を決めたとの話があった。 授業を見学したところ、とても伸び伸びと授業を行っている印象を受け、本人たちのペースに合わせた学習、というニーズに適った環境を提供していると感じた。
その他	

*研修後、できるだけ早く、この様式（A4）1枚のデーターを、事務局 まで提出してください。「報告書」に収録させていただきます

(2) 町田市生涯学習センター「障がい者青年学級」

<1回目>

日時：2021年11月28日（日）10:00~17:00

視察先：東京都町田市生涯学習センター「OB障がい者青年学級」

（東京都町田市原町 6-8-1 町田センタービル 6F）

参加者：伊藤貴治（春日井市会議員）

加藤由美子（瀬戸市元発達支援室室長・元市立保育園園長）

勝 伸博（春日井市青少年子ども部長）

志村美和（春日井市・NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR 理事長）

田中良三（愛知県立大学名誉教授） *本視察研修コーディネーター

内藤純子（春日井市文化スポーツ部文化・生涯学習課課長）

藤井奈保（瀬戸市特別支援教育研究会会長、小学校長） 以上7名

研修内容

10時00分 市民大学、視察団に対して、とびたつ会の紹介

11時00分 市民大学の人からの質問

11時30分 市民大学の人退席。視察団との懇談

12時00分 <昼休憩>

13時30分 午後の活動

今後の活動について話し合う。

16時00分 活動終了

17時00分 松田さんから補足説明

< 2回目 >

日時：2021年12月5日（日）10:00~17:00

視察先：東京都町田市青年学級「ひかり学級」（ひかり療育園：東京都町田市忠生3-6-2）

参加者：伊藤佐奈美（春日井市・中部大学教授）

勝 伸博（春日井市青少年こども部長）

田中良三（愛知県立大学名誉教授） *本視察研修コーディネーター

林ともみ（瀬戸市・株式会社パーソナルリング取締役・MC & パーソナリティ）

福田致代（（瀬戸市・Happy kids 代表） 以上5名。

研修内容

- (1) 活動の場の見学（町田青年学級「ひかり学級」：日帰り旅行の振り返り、クリスマス会に向けた話し合いなど）
- (2) 事業概略についてのご説明（岩田さん他）
- (3) 意見交換

視察研修報告書 提出日（令和3年12月4日）		名前 内藤 純子
視察日	令和3年11月28日	
訪問先	東京都 町田市生涯学習センター（まちだ公民館）	
住所	東京都町田市原町田町6-8-1 町田センタービル6階	
訪問日程	午前 町田青年学級 OB「とびたつ会」のメンバー紹介 オリジナルソングの発表、市民大学受講生との懇談 午後 町田青年学級 OB「とびたつ会」の活動見学及び懇談、支援者との懇談	
対応者	支援者 町田市役所障がい福祉課 松田氏、生涯学習センター 岩田氏 他	
視察内容	障がい者本人活動の会「とびたつ会」（青年学級 OB）の活動見学ととびたつ会のオリジナルソング（自分たちの思い、エピソードを歌詞に託したもの）を10曲視聴（振付もあり、とても明るい歌声に感動） 近況報告、活動内容の話し合い（支援者が上手く話を引き出している）を見学自分の仕事内容の苦勞や自分の言いたいことを伝えられている。 笑顔が絶えない話し合い	
学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者も健常者も違いがなく、同じことができる環境があることはとても大切である。 ・ 障がい者も就労ができれば良いのではなく、趣味や生きがい、仲間を持つことは素晴らしい、幸せにつながる ・ 町田市の障がい者は支援が行き届き、生き生きとしているが支援者に支えられていることは間違いない。ボランティアの育成も重要・・・一緒に楽しめる人が良い ・ 歌で自分たちの思いを伝えられるのはとても良い考え、ボランティアの市の職員は全く弾けなかったギターを伴奏したいために練習し、今はそれができている。支援者の強い思いも必要。 	
その他	歌詞の中の「私たちのことを私たち抜きで決めないで 自分たちの事は自分たちで決める みんな一緒に話そう、考えよう」など本人たちの声を聴き、障がい者だから不幸だという決めつけは違うと感じた。 行政として、彼らに、保護者に何が必要で何ができるか考えていかなければならない。	

(まとめ)

視察研修事業は、本市での障害者の学びの場づくりについて協議し方向性を示していただく立場にある連携協議会委員に、実際に視察していただき、その場の全体的環境や生の雰囲気を感じていただき、春日井市での実現に向けた思いや具体的構想を持ってもらうことを目的に実施した。そのためには、視察研修先で説明を聞き、見学するだけでは不十分であり、コーディネータが同行し、両者をコーディネートすることでより認識を深め、一緒に持ちかえっていただくことを大切にしました。

視察研修には、連携協議会委員の大学教授、春日井市職員、学校教員、特別支援学校長、保護者団体代表だけでなく、市議員と市の部長も自主的に参加した。

視察研修では、視察先の先進的な取り組みについて、事前に資料等で情報を伝え、自分なりの考えをもって参加していただくことを大切にしました。そして実際に見聞する中で、その考え方、方法、環境、成り立ちについて深く学んでいただいた。その後、視察研修参加者で、今後、春日井市でそれをどう生かせるかについて意見を出しあって検討することができたことは大きな成果といえる。

◇ コンファレンス事業 ◇

『地域における障害者の生涯学習推進コンファレンス

in 東海・北陸』

プログラム集の表紙

地域における障害者の生涯 学習推進コンファレンス in 東海・北陸

令和4年1月22日(土)
文化フォーラム春日井視聴覚ホール



©Kasugai City 2008
書のまち春日井「道風くん」



作品：春日井高等特別支援学校生徒

主催：NPO法人春日井子どもサポートKIDS COLOR／春日井市／春日井市教育委員会／文部科学省
共催：NPO法人杏／瀬戸市／瀬戸市教育委員会／春日井市社会福祉協議会
協力：愛知特別支援教育研究会／愛知県立春日台特別支援学校／愛知県立春日井高等特別支援学校
春日井市肢体不自由児・者父母の会
春日井市手をつなぐ育成会／春日井精神障害者家族会むつみ会

7. コンファレンス

令和4年1月22日(土)、春日井市にある文化フォーラム春日井視聴覚ホール、及び交流アトリウムにおいて、『地域における障害者の生涯学習推進コンファレンス in 東海・北陸』を開催した。

開催にあたり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場参加の対面方式と YouTube 配信によるオンライン参加方式のハイブリット方式を取った。

オンライン参加の人については、対面参加の人より早めに申し込み締め切りを行い、当日の資料であるコンファレンスプログラム集を先に郵送した。手元に資料があることによって当日の発表者の話と資料で内容についてより理解していただくことを目的とした。

尚、当日は記念公演として、書家で文部科学省スペシャルサポート大使の金澤翔子さんの席上揮毫と、お母様の金澤泰子さんによる講演を行い、コンファレンスの一番のお楽しみとなった。

1. 当日の参加者

	オンライン参加	+	対面参加	=	合計人数
①学校（教職員等の関係者）	19	+	8	=	27
②学校（生徒）	0	+	2	=	2
③大学（教職員等の関係者）	9	+	11	=	20
④大学（学生・大学院生）	0	+	5	=	5
⑤行政（社会教育・生涯学習・スポーツ・文化芸術）	8	+	1	=	9
⑥行政（学校教育 ※関係機関含む）	2	+	5	=	7
⑦行政（保健・福祉・労働 ※関係機関含む）	3	+	7	=	10
⑧行政（その他の部局）	1	+	3	=	4
⑨社会福祉協議会	1	+	6	=	7
⑩教育委員会	2	+	1	=	3
⑪障害福祉サービス等事業所	11	+	6	=	17
⑫社会教育関係団体（※スポーツ・文化芸術団体を含む）	0	+	12	=	12
⑬当事者等団体（例. 親の会や NPO 団体・一般社団法人）	4	+	10	=	14
⑭保護者（所属なし）	1	+	8	=	9
⑮社会教育施設（例. 公民館）	0	+	6	=	6
その他	8	+	4	=	12
合計	69	+	95	=	164

2. プログラム

プ ロ グ ラ ム

10 : 00～10 : 15	開会式 実行委員長 伊藤 佐奈美（中部大学現代教育学部教授） 春日井市長 伊藤 太 春日井市議会議長 友松 孝雄
10 : 15～10 : 30	趣旨説明 文部科学省 障害者学習支援推進室室長 清重 隆信
10 : 30～11 : 00	成果報告 瀬戸市の取り組み ①「ボッチャ」を通しての学びの場づくり ②「障がい者青年学級」による学びの場づくり（視察研修から）
11 : 00～11 : 50	春日井市の取り組み ①障害者の生涯学習実践研究講座 ②スポーツ講座 1. FC.FERVOR 指導者と参加青年 2. にここ北城クラブ指導者と参加青年
11 : 50～12 : 00	総括 本事業コーディネーター 田中 良三（愛知県みずほ短期大学特任教授・愛知県立大学 名誉教授）
12 : 00～13 : 00	<昼食・休憩>
13 : 00～14 : 30	記念公演 席上揮毫：金澤 翔子（書家、文部科学省スペシャルサポート大使） 講演：金澤 泰子（書家、東京芸術大学評議員）
14 : 30～16 : 30	事例報告と検討 コーディネーター 辻 浩（名古屋大学教授）、小林 洋司（日本福祉大学） ①「安心して学びあい共に育ちあう協働の取り組み」 藪 一之（見晴台学園学園長） ②「ゆめ、やりたいこと実現センターの取り組み」 尾方 千春（和歌山・社会福祉法人一麦会・麦の郷） ③「障がい者青年学級と本人活動の取り組み」 松田 泰幸（町田市とびたつ会支援者）
16 : 30	閉会

3. 金澤翔子さんの紹介

席上揮毫/記念講演「共に学び、共に生きる」

金澤翔子(書家・文部科学省スペシャルサポート大使)/金澤泰子(書家・東京芸術大学評議員)

【金澤翔子-プロフィール】

5歳から母の師事で書を始め。全国の名だたる神社仏閣での席上揮毫を行い、個展も数多く開催。NHK大河ドラマ「平清盛」題字担当や国連本部での日本代表スピーチなど、活動は多岐に渡る。

国外ではニューヨーク、チェコ、シンガポール、ロシア、台湾等で個展を開催。年間10万人以上が個展に訪れる。

東日本大震災後に発表した自身代表作「共に生きる」を合言葉に、被災地への応援や障害者支援など、共生社会実現に向けた活動にも継続的に取り組んでいる。



《略歴（一部抜粋）》

- 1985年 東京都目黒区に生まれる。5歳から母の師事で書を始め。
- 2005年 銀座書廊で個展。2009年から鎌倉建長寺、京都建仁寺で毎年個展。
- 2011年 奈良東大寺で奉納・個展。福島に「金澤翔子美術館」を開設。
- 2012年 NHK大河ドラマ「平清盛」揮毫。2013年銀座に「銀座金澤翔子美術館」を開設。
平泉中尊寺で奉納・個展。熊野大社、厳島神社で奉納の揮毫。国体の開会式で揮毫。
天皇の御製を揮毫。
- 2015年 国連本部でスピーチ。ニューヨーク・チェコなどで個展。
京都に「シナリー金澤翔子美術館」開設。愛媛県美術館、福岡県立美術館で個展。
三輪明神大神神社で奉納の揮毫。太宰府天満宮、比叡山延暦寺で奉納・揮毫。
- 2017年 文部科学省スペシャルサポート大使に任命。
- 2020年 東京2020公式アートポスター制作アーティストに任命。
- 2021年 東京・六本木にて「書家 金澤翔子展 つきのひかり」開催。



【金澤泰子-プロフィール】

金澤翔子の母。1943年生まれ、明治大学卒業。

書家の柳田泰雲・泰山に師事。1990年、東京・大田区に「久が原書道教室」を開設。

著書に『愛にはじまる』ビジネス社、『天使の正体』『天使がこの世に降り立てば』かまくら春秋社、『翔子の書』大和書房、『涙の般若心経』世界文化社、その他多数。

久が原書道教室主宰。東京芸術大学評議員。

【本日の席上揮毫/記念講演の概要】

1. 席上揮毫

書のまちとして有名な愛知県春日井市。今回は特別に、文化フォーラム春日井交流アトリウムを舞台にして、金澤翔子さんが渾身の書を書き上げます。一本の筆に託されたしなやかで繊細な感性、溢れ出る情熱で書き上げられる書を、ぜひ会場でご覧ください！



2. 記念講演「共に学び、共に生きる」

生まれてすぐにダウン症と診断された翔子さん。これまで多くの人に支えられ、努力を重ねながら今に至りますが、その過程では、たくさんの学びがあったといいます。

今回は、金澤翔子さんの母である泰子さんから、「共に学び、共に生きる」と題して、翔子さんの可能性と才能を信じ、二人三脚で歩んできた道について、御講演いただきます。

翔子さんは今、街のみんなに見守られながら、念願だった一人暮らしをして生活をしています。講演では、そんな翔子さんと、共に学び、生きてきた母・泰子さんからのメッセージをお届けします。

※文部科学省スペシャルサポート大使について

文部科学省では、共に学び、生きる共生社会の実現に向けた障害者の多様な生涯学習の推進に関する全国的な普及・啓発を図るため、金澤翔子さんを含む8名の著名人を「スペシャルサポート大使」に任命（下記参照）し、広報活動やイベントにおける講演等への協力をいただいています。

「スペシャルサポート大使」には、障害者スポーツや文化芸術活動を含む、障害者の生涯を通じた多様な学習を支援する活動を行う際にも協力を得て、この理念の全国的な普及・啓発を図り、共生社会の実現に向けて、取組を進めています。

- ・東ちづるさん（女優／一般社団法人 Get in touch 理事長）
- ・有森裕子さん（公益財団法人スペシャルオリンピックス日本理事長）
- ・大日方邦子さん（一般社団法人日本パラリンピアンズ協会会長）
- ・金澤翔子さん（書家）
- ・河合純一さん（一般社団法人日本パラリンピアンズ協会理事）
- ・川島成道さん（ヴァイオリニスト）
- ・横溝さやかさん（イラストレーター）
- ・レモンさんこと山本シュウさん（ラジオDJ）

4. 成果報告 (1) 瀬戸市の取り組み

令和3年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「瀬戸市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

**愛知県瀬戸市
「ポッチャ」を通しての
学びの場づくり**

令和4年1月22日 (土)

地域における障害者の生涯学習推進コンファレンス IN 東海・北陸
瀬戸市教育委員会 学校教育課 池田 有希

人口：129,096人 (令和3年4月1現在)
面積：111.40平方キロメートル

名古屋市 瀬戸市 豊田市

愛知県瀬戸市は、名古屋市の北東約20kmに位置し、森や里山に囲まれ、自然を身近に感じられるまちです。陶磁器の総称である「せともの」という言葉は、「瀬戸で作られたやきもの」が語源になったと言われており、良質で豊富な陶土に恵まれたこの地では、先人たちが新しい技術や文化を柔軟に取り入れ、「やきもののみち」を発展させてきました。長年受け継がれてきたやきものづくりの卓越した技は、多種多様なやきものづくりに繋がり、陶器と磁器が共存する稀有な産地であるだけでなく、ノベルティ（贈物・装飾品）、ファインセラミックスなどが生産され、今も新しいものづくりが続けられています。先人たちが引き継がれてきた「歴史」「伝統」「文化」、そして豊かな「自然」が、今もなお、瀬戸の暮らしに息づいています。

また、2017年4月には、瀬戸市をさむ日本六古来の産地の産地が認定する「きつと恋する六古茶 日本生まれ日本育ちのやきもの産地」のストーリーが日本遺産に認定されました。

住みだいまち 障れるまち 新しいせと
「活力ある地域経済と豊かな暮らしを実現できるまち」
「安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち」
「地域に住まう市民が自立し支え合い 笑顔あふれるまち」

文部科学省による公募 令和3年～

▶ 学校卒業後の障害者の社会参加・活躍を一層推進するため、市区町村が民間団体等と組織的に連携した生涯学習プログラムを開発・実施し、成果を全国に普及することを目的に「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を公募

↑

瀬戸市の障害福祉事業所 「NPO法人 杏」
就労継続支援B型 生活介護

ポッチャの取り組み

▶ 既に市内の学校で盛んに行われているポッチャ
▶ 地域においてポッチャができる場を整備し、学校卒業後も障害者が活動する機会の提供
▶ 地域住民がポッチャを通じて一緒に活動できる場の整備
▶ 地域への障害理解を深める

ポッチャの取り組み

「瀬戸ポッチャクラブ」

▶ 肢体不自由の市立特別支援学校 瀬戸市立瀬戸特別支援学校（通称：さくらんぼ学園）から独立した組織

▶ 子どもから高齢者、同年齢や異年齢などの相互理解や人間関係の育成、向上に寄与することを目的として設立。

▶ 瀬戸特別支援学校の在校生や卒業生の自立と社会参加の場として、また生涯に渡り、ポッチャを通して交流を深められるよう、瀬戸市内の小学校、中学校、高等学校や地域の方々の協力を得て活動。

▶ 毎年「ポッチャ大会」が行われている。

ポッチャの取り組み

ポッチャ大会

↑

学校卒業後の障害のある方が広く参加

- ▶ ・障害福祉事業所
- ▶ ・障害者親の会

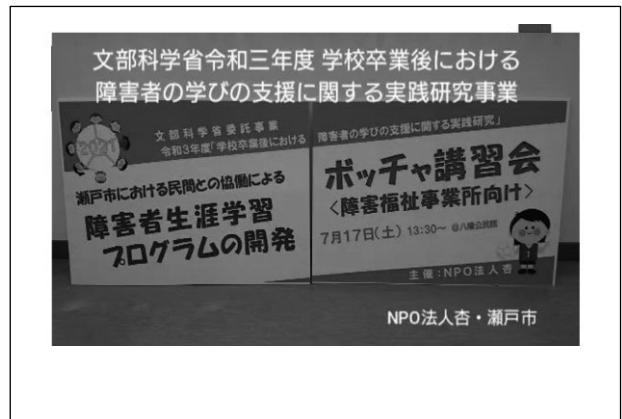
↑

大会運営等に様々な立場の人が関わる

- ▶ ・公民館
- ▶ ・コミュニティ・スクール

ポッチャ大会に向けて 「ポッチャ講習会」

	障害福祉事業所向け	地域向け
主な目的	<ul style="list-style-type: none"> 本委託事業の周知。 ポッチャ大会に向けた練習の機会を提供。 障害者本人の新たな趣味の獲得や、ポッチャ経験者の発症、意欲や能力の向上等に繋げる。 自事業所以外の人と交流し、仲間の輪を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本委託事業の周知。 ポッチャの周知。 地域と障害者を繋ぐ。
日時	7月17日(土) 13:30~16:00	7月24日(土) 13:30~16:00
場所	八幡公民館	
対象者	障害福祉事業所の利用者および事業所職員	公民館職員および地域の障害者
参加人数	25人 (障害福祉事業所の利用者18人+事業所職員7人)	19人 (公民館職員11人+地域の障害者青年6人+地域コーディネーター2人)



ポッチャ大会

日時：令和3年10月23日(土) 午前中
場所：萩山小学校体育館
瀬戸特別支援学校教室(リモート観戦用)

参加チーム	人数
瀬戸特別支援学校	2チーム 12人
瀬戸北総合高等学校	1チーム 4人
障害福祉事業所から	
杏	1チーム 4人
らいむ畑	1チーム 4人
ジョブスタイル	2チーム 8人
親の会Happy Kids	1チーム 3人
合計	8チーム 35人

ポッチャ大会 運営補助としての関わり

▶ 萩山公民館 八幡公民館 原山公民館 合計 12人

＜コート補助係＞

- 対戦表・得点板表示
- ボールの回収
- 結果表記入
- 試合間のコートのモップがけ
- ボールの消毒の補助

♪ 瀬戸特別支援学校コミュニティ・スクールの地域学校協働活動推進員も運営に関わる

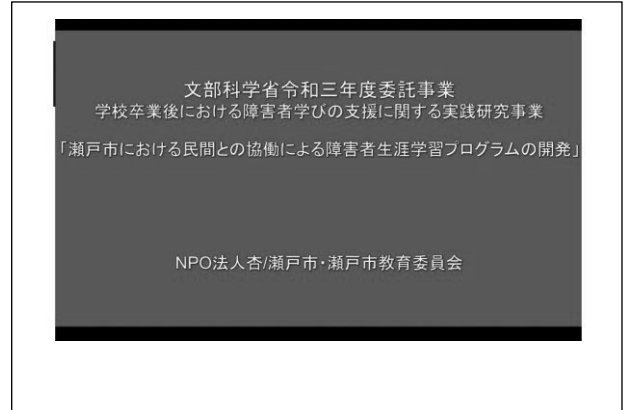
自然に障害のある人と関わる

障害者の生涯学習考えるきっかけ

ポッチャ大会 試合の様子

- ▶ 優勝チームは、受託先のNPO法人杏チーム！！
- ▶ 決勝は、唯一の健常者チーム瀬戸北総合高校との戦い
- ▶ 試合の途中には、瀬戸市長の応援も

運営も含めた参加者みんなが、ポッチャの楽しさを存分に味わうことができ、心温まる大会に



成果報告会

障害青年自身によるポッチャ大会参加の報告

- ▶ 優勝してうれしかったこと
- ▶ 大会に向けてみんなで練習して楽しかったこと
- ▶ ポッチャが好きになったこと
- ▶ 休みの日にいろんな人と関わりたい
- ▶ ポッチャの他に、ダンスがやりたい
- ▶ 歌が好きなので、みんなと歌を歌いたいと、好きな曲を歌いながら教えてくれた方もいた

時間	主なプログラム
13:30	開会の挨拶
13:40	学習プログラム発表報告 I 「ポッチャ」を通しての学びの軌跡(2021) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業説明と経緯報告 ・ ポッチャ大会に参加して ・ ポッチャ大会の経験がもたらしたもの II 「障がい・地が学びの場」による学びの軌跡(2021) 発表報告
15:00	講演「障がい者が学びの場になること-生涯学習を軸として-」 田中悦二(障がい者福祉大学校長・愛媛県立大学学長兼副学長)



成果と課題

- ▶ 行政と連携することにより、広く学校や公民館と関わりながら事業を展開することができた。
- ▶ 事業に参加した障害福祉事業所が余暇活動にポッチャを取り入れるなど、障害青年の新たな意欲や楽しみを創出する機会となり、継続的なポッチャの推進に繋がった。
- ▶ ポッチャ活動を検討している公民館があり、障害者の生涯学習の実施に至るきっかけ作りとなった。
- ▶ アンケートの結果の内容や成果報告会の参加者の少なさから、事業、特に障害者の学校卒業後の学び、生涯学習の必要性の周知啓発に課題があることが分かった。
- ▶ 連携協議会委員とともに、地域に向けて本事業の重要性を発信し、地域が主体となって取り組むことができる仕組みを推進

目指す将来像

障害者にとって学校卒業後、企業・福祉事業所等と自宅の行き来だけでなく、地域に開かれた様々な居場所での学びが生活の一部となる

共に学び、共に生きる共生社会の実現

(2) 視察研修

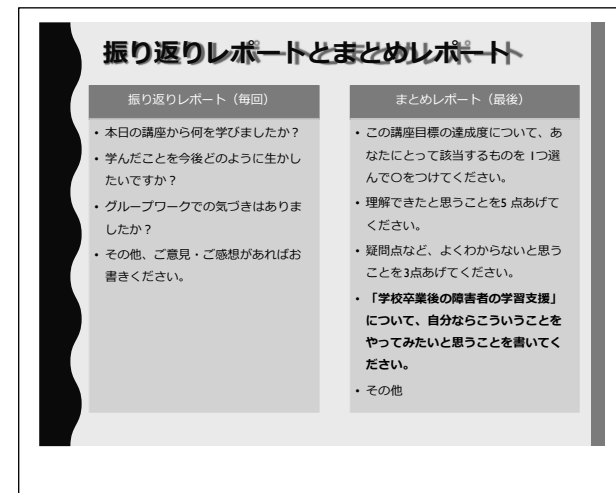
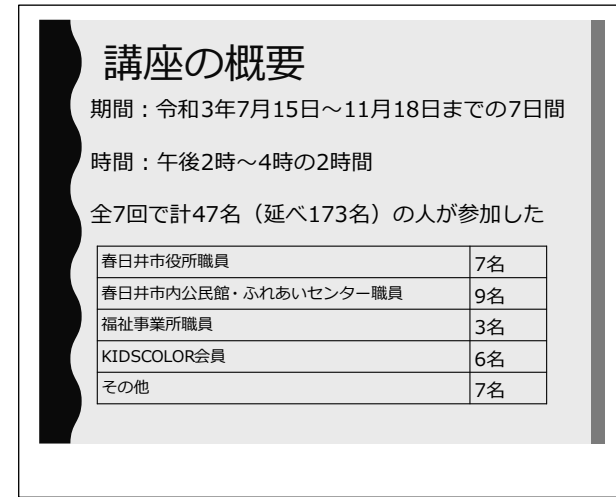
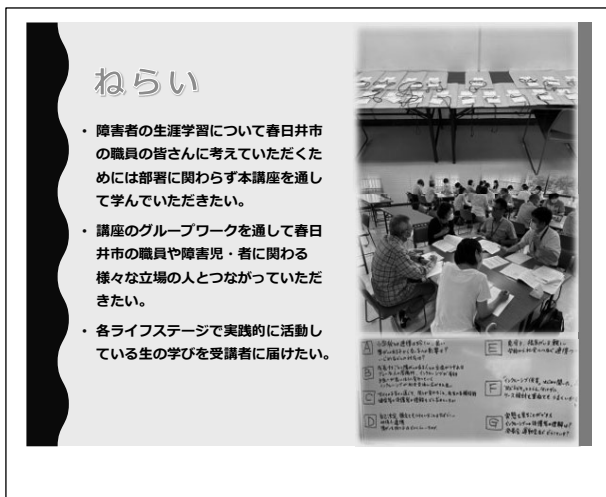
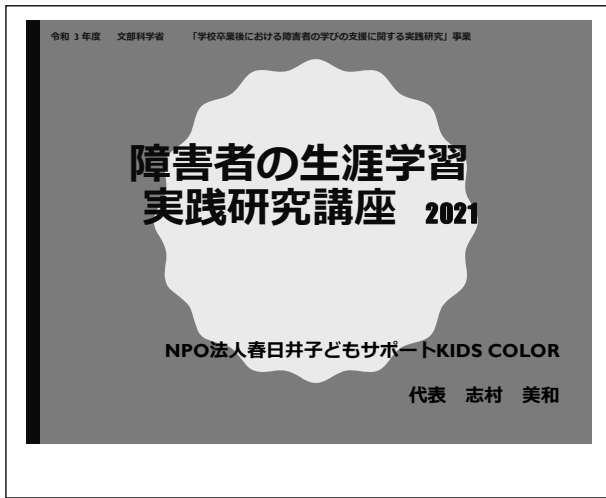
瀬戸市から、町田市青年学級とびたつ会に視察研修を行った NPO 法人るんるん保育所ぜんまいの加藤由美子園長から感想を交えた報告があった。

午前中は、自己紹介と皆さんが作詞作曲された歌を披露していただいたことにとっても感動したこと、お昼休憩をはさんで午後は、それぞれの近況報告と今後の活動への思いを聴いてあつという間の 1 日研修だったことを報告した。



(3) 春日井市の取り組み

1. 障害者の生涯学習実践研究講座



「学校卒業後の障害者の学習支援について、自分ならこういうことをやってみたいと思うことを書いてください。」

- ・「学び直し塾」のようなことをやってみたい(元教員・KIDSCOLOR)
- ・料理教室など生活に直結したものを開催したい(社協職員)
- ・音楽・絵画など文化的な学習(社協職員)
- ・健常児と障害者の異年齢が関わるイベント(障害者生活支援センター職員)
- ・学校卒業後の障害者が施設入所者と関わるイベント(同上)
- ・教員、支援者団体、学生等で事例検討会がしたい(行政職員)
- ・公民館登録団体が行う講座等の参加対象を障害者にも広げる、障害者グループの活動を公民館認定団体にする(公民館職員)
- ・ビジネススキル(コミュニケーションやSTIや、PCスキル、SNS、ブログ、クラウドソーシング等が学べる支援(放課後デイ職員)
- ・プログラミングやスポーツ体験(行政職員)

- ・休日の居場所づくり(保護者立場・KIDSCOLOR)
- ・公民館を活用して障害者が相談できる場、情報提供する場にする(公民館職員)
- ・生涯学習を福祉サービスのメニューに加える(行政職員)
- ・音楽・楽器に触れられる機会(保護者団体)
- ・かるた大会や書道体験など、楽しんでグループワークが実施できる企画(幼稚園園長)
- ・発達障害者が主催する一般向けの「発達障害を理解するための講座」、障害者主催の一般向けの「障害スポーツ講座」(学校生活支援員)
- ・ドローンに触れてみよう、遊んでみよう(公民館職員)
- ・職業と学びが自由に行き来できる場づくり(KIDSCOLOR会員)
- ・理科、社会、生活、芸術が自分とつながっていることが実感できるようなプログラム(KIDSCOLOR会員)
- ・対話の会(関係者が目的を共有する語り場)(KIDSCOLOR会員)

今後の課題・次年度に向けて

①現在この春日井市には学校卒業後の学びの場はなく、支援学校を卒業したら就労が当たり前で、学び続けるという選択肢は当事者及び当事者家族の中で思い浮かばないのが現状

↓

一般就労していても、事業所で働いていても、気の合う仲間とホッとできる場が必要！
スポーツや文化・芸術、趣味、習い事などを通して集まれる場が必要！

②行政や障害者の相談を受ける事業所側の情報共有や情報貧困

↓

行政が中心となり、春日井市や近隣地域のリソースに常に敏感になり、情報共有システム、連絡会、コーディネーターの設置などを検討！

③学びの場を作ったとして移動支援は保護者に係ってしまうのか

↓

移動支援については今後も行政と検討が必要。合わせて通いやすい場所、方法を検討することが必要！

④支援者・理解者の養成をどうしていくか

↓

NPOとの協働で、支援者養成も可能。しかし、養成講座を受けるだけではなく、実際に青年たちと触れ合う機会を作って実践実習から支援者自らが学んでいくことが重要

Nothing about us without us!

私たちのことを私たち抜きで考えないで！

今年度、春日台特別支援学校、春日井高等特別支援学校、保護者団体、等のご協力を得て、青年たちにアンケート調査を実施

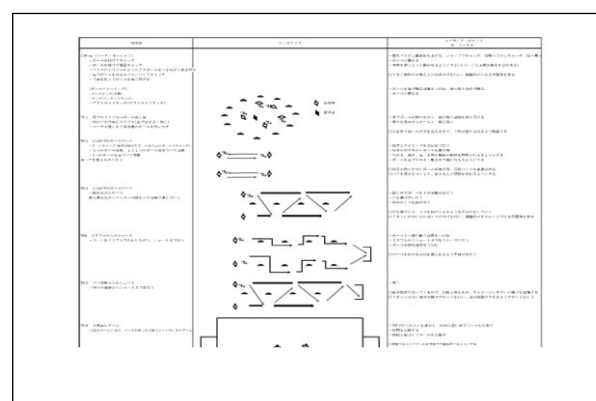
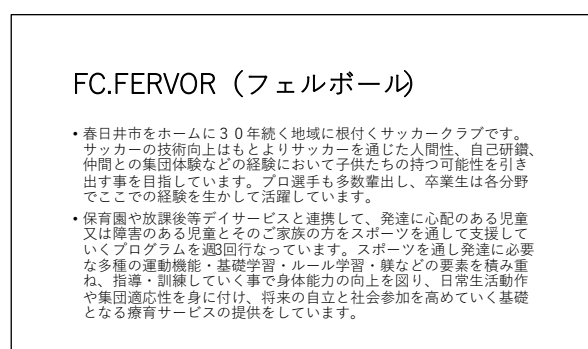
次年度以降、アンケート調査を生かし、青年たちと一緒に
『集える場所・学べる場所・輝く春日井』
を考えていきたいです！

2. スポーツ講座

今年度行ったスポーツ講座、サッカーとバドミントンの取り組みについて発表してもらった。初めての試みで、参加募集に苦労し、広報活動についての課題が明らかになったが、参加した本人やその保護者からは「こういう場所が欲しかった」「またあったら参加したい」という嬉しい感想を残していただいた。健常者もそうであるが、初めての場所、初めての人には緊張するし、「そこに行ったらどんなことがあるのか」「どんな人がいるのか」等行ってみよう、という気持ちになるまでにはかなりハードルがある。そこで連携協議会委員でもある特別支援学校長からは、講師に学校に来てもらって、授業の中で学校の先生以外の人から教えてもらう、授業とは違った楽しみを見つけてもらうことから始めてみてはどうか、という次年度への方法にもつながる意見があがってきている。

また、今年度はスポーツ講座のみの開催となったが、文化・芸術活動についての希望や、本人たちが何をやりたいか、どんな場所を望んでいるかについて検討し実践につながっていくとよい。

2-1 サッカー講座



7. コンファレンス

ウォーミングアップ 二人組でのボールワーク



トレーニング 的あて



トレーニング 一人ひとりに適した声かけ



トレーニング ドリブルからのシュート



トレーニング 入出しゲーム



自然と生まれる一体感



最後はみんなで円陣



当日参加者の槇原啓太さんが当日壇上でサッカーフェスティバルの感想を発表してくれました。

(以下発表内容)

『春日台特別支援学校卒業生の槇原啓太です。

今は瀬戸市の杏で働いています

五平餅を作ったり販売をしています。

僕はサッカーが大好きです。

この前、参加して嬉しかったことは仲良しの友達、久しぶりの友達、新しい友達とサッカーができたことです。

ドリブルやパスの練習をしたり、最後はチームに分かれて試合をしました。

シュートをすることもできました。

みんなで体を動かしたり笑ったり、これからも楽しい時間があるといいなと思います。』



まだまだ課題の多いところですが、一つ一つクリアしながら多くの方に理解をしていただく場になったとも感じています。多くの方々に積極的に意見をいただき、一緒になって考えて取り組んでいく。皆さん方と共に作り上げる未来を夢見て・・・夢見るわけではないですね。今必要な方達がいるなら、今僕らが行動を起こしていく必要がある。クラブの中で学校の中でまさに一体となって作っていく空気が必要です。何も無いところからのスタート。これからも行動しながら修正しながら進んでいきましょう。

2-2 バドミントン講座

学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究実践事業

初めてのバドミントン教室

安藤 志津子

初めてのバドミントン教室

みんながバドミントンを楽しめるように！
ジュニアチームのコーチが優しく教えます

日程 11月13日(土) 11月20日(土) 12月4日(土)
時間 9:30~11:30
場所 レディヤン春日井多目的ホール(1階)
持ち物 運動できる服・体育館シューズ・タオル・水分
バドミントンラケット(持っている人)
参加料 無料

申し込み先
要スポンサー登録
<https://forms.gle/U6TW3FuQed1cuqZ8>

- 年齢は、参加したい年齢の方を対象とした事業です。参加が可能な年齢の方にご参加ください。
- 参加が予定されている方以外の方のご参加は、参加できません。
- 参加が予定されている方以外の方のご参加は、参加できません。

参加人数

日時	参加人数 (保護者)	コーチ	学生	スタッフ	合計
11月 3日 (土)	6人 (3人)	7人	6人	4人	26人
11月 20日 (土)	14人 (5人)	7人	6人	4人	36人
12月 4日 (土)	8人 (5人)	7人	6人	4人	30人

場所 レディヤン春日井
時間 9:30~11:30



後片付けの様子



講習後のモップ掛け



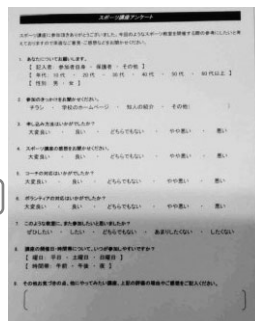
当事者・保護者の感想

- 4 スポーツ講座の感想
- 5 コーチの対応
- 6 ボランティアの対応

すべての回答が **大変良い** か **良い**

- 7 このような講座に、また参加したい

すべての回答が **ぜひしたい** か **したい**



ボランティア学生のアンケート

座学の活動より、体を動かしながらの活動の方が自然な自分で関わることが気が付いた。

障害がある人ともスポーツを通じてたくさんのコミュニケーションを取ることができた。これからもこういった機会があれば参加したいと感じた。

ボランティアとして参加したが、参加した一員としてとても楽しく活動することができた。

一人で初対面の人とスポーツするのは、緊張するけど、参加者の中に友人がいたり、保護者がいたりすることで表情もちがってくと感じた。身内の存在が大きいと感じた。

保護者の方もとても楽しんで積極的に参加していた。保護者の送迎が必要である場合が多いので、親子でスポーツを楽しめる環境を作ることが、スポーツを継続できる大切な要因なのではないかと感じた。

障害のある方と関わる機会がないまま特別支援の免許を取るためかなり不安がありました。しかし、この講座に参加し、たくさんコミュニケーションを取ることができたことは、とても貴重な体験になりました。

指導するスタッフからも学生の細やかで素早い行動に感動する声があがっていた。学生に障害のある方と関わる経験は、これからの特別支援教育に携わる者としての大きな経験となるであろう。また、小中学校の教員になった時も障がい者青年の現状を知っていることが児童生徒の将来像を想像することができ、学校現場で生かすことができると考えられる。

指導者感想

初めて障がいの方を指導するという事で不安があったが、バドミントンを通して活動するうちに不安はすぐ吹き飛んだ。全くだも一緒だった。こちらも笑顔と笑顔で過ごす時間を持つことができ、とても有意義だった。とても楽しい時間だった。

春日井市は、県内でも有数のバドミントンの盛んな地域である。ボランティア学生もそうであったように、指導者も経験がないので不安が先立っていることが多いのではないだろうか。このような講座を開催することで、指導できる人材も多くなっていく強い選手を育てるだけでなく、指導者の生きがいになるきっかけにもなると感じた。

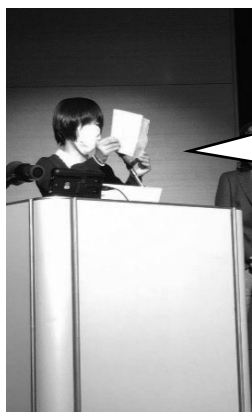
普段のバドミントン教室に比べたら指導者の数が多かったこと、保護者の参加や学生の参加が安全で楽しい講座を支えてくれた。

コーチ側からも学生、保護者の協力がありがたかったことがわかる。保護者はもちろん、大学と協力連携を築いていこうと感じた。また、通常のバドミントン教室より、コーチの人数を多くすることは、参加費の設定が高くなる。そのうえ、体育館を予約することも困難な状態である。これらの問題を解決するためには、行政の協力が不可欠だと感じた。

ご清聴ありがとうございました



☆ コンファレンスで発表するバドミントン講座の参加者



バドミントン教室で楽しかったことは、ラケットで羽を打つのが楽しかったです。コーチやボランティアの学生さんと一緒にバドミントンの練習をやったのが楽しかったです。難しかったところは、ラケットの真ん中で打つのが難しかったです。また、バドミントン教室に参加したいです。もっとうまくなって試合に出たいです。


5. 事例報告

(1) 見晴台学園

令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」
 「地域における障害者の生涯学習推進コンファレンスin東海・北陸」
 令和4年1月22日(土) 文化フォーラム春日井視聴覚ホール

事例報告

**「安心して学びあい
 共に育ち合う協働の取り組み」**



藪 一之
見晴台学園・名古屋

見晴台学園の特徴

1. 障害児を対象とした
フリースクール
2. 「子どもに合わせた学校」
→5年間の高等部教育の保障

ゆっくり育ち、力をつけていくタイプの
子どもたちだからこそ、より長く学ぶ
期間が必要

「もっと学びたい」
全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会
専攻科づくりの研究、実践、運動の拡がり

文科省 特別支援教育の
生涯学習化政策

1990年4月開校

成人を祝う会
2022.1.7

新成人の決意、生まれた2001年にまつわるクイズ、記念品贈呈、保護者
からのお祝いのことば、など新成人の門出を祝う内容が盛沢山の一日



研究論文発表会(2022.1.15 名古屋市博物館講堂)

研究論文発表会




「研究論文」を通して自分と向き合い、
人とつながって
~Kさん(20才)のケースより~



年度	テーマ	年度	テーマ
2021	私の考えた生き物たち 私の大好きなシブリアンについて 僕の修習改革について 私の好きな水産物とそこにいる生き物	2017	「ユニバーサルデザインジャパン」の 魅力について 認知機能 僕は電車が好き 私の好きなアニメについて
2020	私にとっての特殊 私の大好きな「 ゴキブリ」について 私の大好きな「 嵐」	2016	映画鑑賞 私が好きなアニメ クラナド 私の大好きなゲーム「 私車編」 私の趣味、レジン
2019	僕のトモコシの世界 私の大好きなジエニスについて 私は旅行へ行くのが大好き 僕の好きなサッカーの楽しみ方	2015	私の和菓子の楽しみ方 水餃子〜わたしにとっての夢の第一 自分と保護者 僕と平仮名漢字
2018	冷凍/イスタの味と伝統 東北産と走り屋 戦争のこと	2015	実践手帳 自分の大切なエピソードについて デビュー〜当時から大好きな mimoについて 僕の好きなファミリーの 思い出について

2021年度版は4名で258ページの
大作でした。

過去7年間の研究論文テーマ一覧と製本した『研究論文集』






絵を描かないKさんは、この時間個別の課題(図形のグラデーション)に取り組んでいる

高等部本科1年生「造形」の授業場面

Kさんの得意なこと、苦手なこと...




- ・計算
- ・工作
- ・調理
- ・清掃
- ・からだを動かすこと

- ・創作
(文章を考えて書く、見たままに絵を描く)
- ・選択・決断
- ・人前で発言する

論文完成までのみちのり①


6月 ・スマホで撮った写真にコメントをつけてアルバム化していく方法で研究論文を制作していくことを決める。

7月～8月 ・撮りだめた画像データの収集、HDへの移動、ファイル整理。
・数が多いため、近々の2年間の写真にのみコメントをつける。
・1枚ごとに本人が話してくれた会話をそのままメモにとる。



論文完成までのみちのり②


9月 ・「中間発表会」において、テーマや章立て、「はじめに」の内容をつくり、自分の論文の骨子を発表し、意見やアドバイスをもらう。



「中間発表会」専攻科生と私たちの前で報告するKさん

論文完成までのみちのり③

10月～11月 ・コメントの聞き取りを継続。
・過去二年間の日にち別に使用する写真を選定しテンプレートに貼り付ける。同時にメモしてもらったコメントを入力する。




一覧印刷した中から写真を選定

写真とコメント、日付、場所を入力したもの

論文完成までのみちのり④

12月 ・スマホを所持してから5年間のすべての写真からカテゴリー別に思い出の写真を選定。
・最終章「私の『好きもの』って何だろう」と「おわりに」を一緒に話しながら作成。
・12月19日、「研究論文」提出。




提出に向けて追い込みの4人

印刷して閉じた83Pの「研究論文」を提出

論文完成までのみちのり⑤

1月 ・論文からの抜粋をプレゼンテーション用に作成。
・発表原稿作成、発表練習。
・1月15日「研究論文発表会」にて発表。




リハーサルの様子

「アルバム」と思い出の写真を紹介

論文完成までのみちのり④

12月 ・スマホを所持してから5年間のすべての写真からカテゴリー別に思い出の写真を選定。
・最終章「私の『好きもの』って何だろう」と「おわりに」を一緒に話しながら作成。
・12月19日、「研究論文」提出。



提出に向けて追い込みの4人

印刷して閉じた83Pの「研究論文」を提出

論文完成までのみちのり⑤

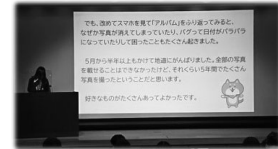
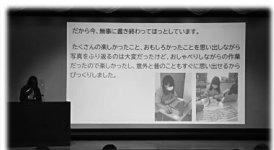
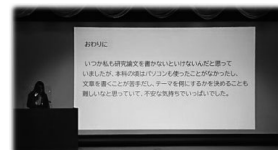
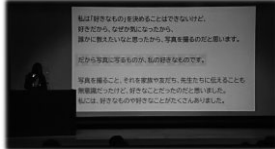
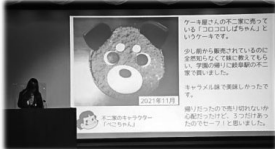
- 1月
 - ・論文からの抜粋をプレゼンテーション用に作成。
 - ・発表原稿作成、発表練習。
 - ・1月15日「研究論文発表会」にて発表。



リハーサルの様子



「アルバム」と思い出の写真を紹介



研究論文発表会
2022年1月15日(土) 名古屋市

Kさんの発表に対して会場からは「写真の撮り方がうまいな、撮り方を教えてほしいです」、「Kさんが興味があることに向けて愛情や優しさが伝わってきた」という発言が寄せられた。

また、Kさんの母親は「(娘が)論文を通して好きなものがたくさんあることに気づくことができて嬉しい。」と感想を述べ、本人のがんばりを褒めていた。

おわりに

- ・学校卒業後の学びに移行していくには学校時代の「学ぶ楽しさ」、「達成感」を経験していることが大切になるのではないかと
- 障がいのある人の学校教育の更なる充実



TKD57(2021/11/9~12)の初日。生徒5名でイタリアンレストランでの夕食風景。初めての自撮りに挑戦したKさん。

- 学校教育と生涯学習のゆるやかな連続性をもった連携

- ・法定外見晴台学園大学への進学を希望した Sさんの理由
- 「私は何をしたいのかまだわからないから大学に行きたい・・・」
- 学ぶ場所がある、選択肢があるから考えることもできる
- 休日の余暇活動にとどまらない、全日的な教育環境(大学等の活用)が整備されることへの期待

ご清聴ありがとうございました

(2) 麦の郷ゆめやりたいこと実現センター

**「地域における障害者の生涯学習プログラム
開発・推進 コンファレンスn東海・北陸」**
2022.1.22



文部科学省
「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」
社会福祉法人一麦会（麦の郷）
ゆめ・やりたいこと実現センター

社会福祉法人一麦会 麦の郷

- ・1977年3月和歌山市にたつのご共同作業所を開所
- ・「なんとかならんか？」
⇒「ほっとけやん!」「やってみよう!」
- ・現在、子ども支援部、労働支援部、就労・相談支援部・地域生活支援部・事務管理部の22事業所で2000名を超える人を支援
- ・みんなで踊り隊（よさこい踊り）、青年学級すばらしき仲間たちつながり文化祭、アートサポートセンターRAKUの表現活動…生涯学習や余暇支援の活動をしてきた



夕刻のみり場

いつ？ 毎週水曜日、15時～19時まで
どこで？ JR粉河駅近くの古民家山崎邸で
何してる？ 集まってのんびりお話ししたり、講座に参加したり
夕食を作って食べたり、ゲームをしたり、散歩したり…

- ・自分の意思 “選んで” 参加
- ・サポートしあう関係、話し合える関係
- ・『つばやきサポート』で悩みを解消

<作業所などの仕事終わりにホッとできる居場所>

仲間・時間・空間

夕刻のみり場の様子



やりたいこと講座

- ・「こんなことしたい！」という声をもとに企画・実施
- ・だれでも参加してもらえる（交わり合うことが大切）
- ・1年目…32講座のべ638名（初回2018年9月17日『食事と健康』）
- ・2年目…54講座のべ1057名
- ・3年目…34講座と連続講座でのべ476名 計130講座のべ2171名参加

- ・体力・健康づくり…ゆる体操・マラソン・登山・ヨガ・ストレッチ
- ・趣味・教養…俳句・ちぎり絵・フルーツリースづくり・マジック・カラオケ・二胡演奏・俳句・フラワーアレンジ・書道・映画鑑賞・絵手紙・寄せ植え・トークと絵本・段ボールアート・マカロニアート・ハーバリウム…
- ・防災…防災グッズづくり・ロケットストーブづくり・ポリ袋クッキング
- ・マニアック？…マヤ文明の謎に迫る・考古学で紀州の歴史を学ぶ

ひとりの願いから多くの人たちと出会い学びの共有ができた

2021年度 やりたいこと講座



左上：絵巻絵に挑戦しよう
上右：俳句を楽しもう
下左：寄せ植え講座
下右：ワクレレの音色を楽しもう

※全て、参加者からの希望やゆめを聞き取りして、実現した講座。

連続講座

- ・15単位 約2か月間 × 2コース ・定員6名
- ・一定期間連続した講座の開催で、より専門的知識や技術を学ぶ

- *2020年8月開講『自然のめぐみまなぶ・つながる』
野菜を育てて自然とのつながりを感じ、味わう
- *2020年10月開講『今日の私はアーティスト』
オブジェ・ランタン・さかさ万華鏡等制作
- *2021年6月開講『楽しもう自分の書』
大きな筆でみんなで書こう・俳句を作って書にしよう等
- *2021年8月開講『今日の私はアーティストII』
新聞紙・廃材・小枝を使ってみんなで楽しいアート

積み上げていく楽しさとつながりの深まりが生まれた

7. コンファレンス

***2021年6月～7月開催**
『楽しもう 自分の書』の様子
 全国障害者芸術・文化祭和歌山大会に向けて作品制作



***2021年8月～9月開催**
『今日の私はアーティスト』の様子



***2021年11月開催**
障害者文化祭の様子



ゆめ・やいたいこと実現センター
アート作品展2号



ゆめ・やいたいこと実現センター

*支援する・されるではなく“一緒に”活動する
 *多くの人と“一緒に”創る
 *みんなの『ゆめ・やいたいこと』の実現を
 “一緒に”目指す

↓

- ・地域のたくさんの人に『つたえる』
- ・たくさんの人と手を『つなぐ』
- ・人と人を『つなげる』
- ・ネットワークを『つくる』

「無理かもしれへん」が「できるやん！」に変わった瞬間～宮里泰広さん(参加者)～



なかまと不安や悩みを共有し、友情を育む大切な場所～三木将矢さん(参加者)～



「生きる」がある場所 夕刻のたまり場～名倉くみ子さん(書道家・ボランティア)～





ゆめ・やりたいこと実現センターの今後について

・「障害者の生涯学習支援活動」に対して文部科学省から表彰をいただきました。

共に学び、生きる共生社会コンファレンス & ゆめ・やりたいこと実現センター報告会

テーマ：『学び合う そして 創り合う』 part2

開催日時：2022.1.30（日）13:30～16:00【オンライン開催】

13:00 開会 文部科学省障害者学習支援推進室から尾谷啓明

13:35 講演 「障害のある人と一緒に取り組むインクルーシブな研究活動」
天理大学准教授 森口弘美さん
クア文化研究所本人リサーチャー 中西正葉さん

14:55 グループワーク 15:30 グループワーク共有

15:40 まとめ 森口弘美さん・和歌山大学名誉教授 堀内秀雄さん

16:00 終了

尚、ゆめ・やりたいこと実現センターの発表は、新型コロナウイルス感染拡大防止策として愛知県に蔓延防止等重点措置がとられていたため、和歌山県と ZOOM をつなげて行った。

（3）町田・本人活動の会「とびたつ会」

町田市青年学級 ととびたつ会

松田 泰幸
とびたつ会支援者
元 公民館職員

趣旨

障害をもつといわれる青年・成人が、様々な活動に取り組みながら、歌づくりと発表をとおして、自らを表現することの大切さ、社会教育の大切さを確認したい

障害者青年学級の概要

①歴史

1973年 障害をもつ青年の母親たちが市に開設を要望。

1974年11月 町田市公民館の主催事業として始まる。20人

1991年 ひかり学級開級

1997年 土曜学級開級

2002年11月 公民館移転（市街地の商業施設・7・8階）

2012年4月 生涯学習センターに改組

②青年学級の目的

目標 「生きる力・働く力の獲得」

活動の柱

- 1 仲間づくり（自治活動）
- 2 生活づくり（生活の見つめなおし）
- 3 文化創造（自らの文化をつくる）

③青年学級の現在

公民館学級

第1第3日曜日 まちだ中央公民館 65人 担当者18人

ひかり学級

第1第3日曜日 ひかり療育園 48人 担当者17人

土曜学級

第2第4土曜日 まちだ中央公民館 45人 担当者15人

合計 158人 50人

※活動時間は、いずれも10時～16時

④1日の流れ

10時00分 朝のつどい（全体会）

10時30分 コース活動

12時00分 昼食 休憩

13時00分 コース活動

15時30分 かえりのつどい（全体会）

16時00分 終了 班長会など開催

⑤コース活動

音楽（うた・楽器）コース

劇・ミュージカル コース

健康からだづくり コース

ものづくり コース

生活 コース

（このほかに、自然、イベントなど）

とびたつ会の概要

①経過

2003年 青年学級有志がピープルファースト滋賀大会に参加
帰路、本人活動の会について話し合う。

2004年5月23日 とびたつ会 結団式 8人

2014年 10周年記念マルチ・ビタミンコンサート
青年学級40周年事業に参加

2019年 15周年記念イベント開催 25人

②活動状況

活動日 毎月 第2・第4日曜日

活動場所 まちだ中央公民館ほか公共施設

活動時間 10時00分～16時00分（その後お茶会）

コロナ禍のため今はできていない。

参加者 29人（女性9人、男性20人）

青年学級を経験した人=16人、直接参加=13人

車イス利用=8人 ヘルパーさんと参加=5人

③うたづくり

青年学級では、1980年代から歌づくりとその歌をうたい、発表することを大切にしてきました。

はじめのうちは、いつも聞いている大衆文化としての歌謡曲などをうたっていました。

次に、学生担当者がうたごえ運動の歌を紹介して歌いました。

参加者の一人ひとりの声を歌詞に歌をつくりはじめました。

それを市民の前で発表しようとはじまったのが、「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」（1988年～）です。

④とびたつ会のうたづくり

青年学級とおなじようにとびたつ会でも歌をつくりうたっています。

日ごろの活動の中で書いた文章や、学習会をとおして、その感想など参加者の言葉を基につくっています。

被爆体験談を聞いて＝「生きてゆこう」

性と生の学習＝「キレイな空」「つながるいのち」

ハンセン病資料館見学＝「あっぱれな人生」

わかそよ2021の構成

① 始めの言葉（2分 実行委員のあいさつ）

② 上を向く会（10分）

③ わかそよの歴史（20分）

④ 私たちの権利（20分）

⑤ みんなのいのち（20分）

⑥ 平和の輪を広げよう（20分）

⑦ このいまをいきる（20分）

⑧ 最後の言葉（3分 実行委員のあいさつ）

⑨ フィナーレ（5分 わかそよテーマの歌）

④活動の様子(動画)

若葉とそよ風のハーモニー2021

※新型コロナの影響でコンサートが出来なくなり、映像収録としました。

(約20分)



結論

社会教育の充実を

あらゆる世代の人にとって、生活の場と仕事の場とは違う第3の場=学びの場が必要である。

自らの暮らしを見つめなおし、発信することをおしてより豊かなくらしにつながる。

本来の社会教育が目指してきたもの(制度等)が、形骸化されてきているが、コロナ禍の今こそ、語り合い、知恵を出し合う場としての社会教育の充実が不可欠である。

6. 参加者のアンケートから

参加者には、コンファレンスのアンケートのご協力もお願いした。オンライン参加の人にも、対面参加の人にも、QRコードを読み取ってSNSで回答ができるようにした。

オンライン、対面参加164名中(事務局、登壇者を含む)36名の回答があり、回収率は21%となった。尚、36名の回答の内訳は、オンライン参加者15名、対面参加者21名だった。

地域における障害者の生涯学習推進コンファレンス in 東海・北陸

本日は、コンファレンスにご参加いただき、ありがとうございました。

アンケートへのご協力、よろしくお願いいたします。

なお、Googleフォームからでも回答することができます。

フォームで回答される場合、右にあるQRコードを読み取り、回答をお願いいたします。



【1】ご所属(該当する□に一つだけチェックをお願いします)

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> ①学校(教職員等の関係者) 9 | <input type="checkbox"/> ②学校(生徒) |
| <input type="checkbox"/> ③大学(教職員等の関係者) 4 | <input type="checkbox"/> ④大学(学生・大学院生) 1 |
| <input type="checkbox"/> ⑤行政(社会教育・生涯学習・スポーツ・文化芸術) 7 | <input type="checkbox"/> ⑥行政(学校教育 ※関係機関含む) 1 |
| <input type="checkbox"/> ⑦行政(保健・福祉・労働 ※関係機関含む) 1 | <input type="checkbox"/> ⑧行政(その他の部局) 1 |
| <input type="checkbox"/> ⑨社会教育関係団体(※スポーツ・文化芸術団体を含む) 1 | <input type="checkbox"/> ⑩社会福祉協議会 |
| <input type="checkbox"/> ⑪教育委員会 1 | <input type="checkbox"/> ⑫障害福祉サービス等事業所 1 |
| <input type="checkbox"/> ⑬当事者等団体(例. 親の会やNPO団体・一般社団法人) 2 | <input type="checkbox"/> ⑭保護者(所属なし) 3 |
| <input type="checkbox"/> ⑮社会教育施設(例. 公民館) <input type="checkbox"/> ⑯その他(医療機関2、地域コーディネーター1、KIDSCOLOR 1) | |

【2】あなたは、どのような立場で障害者の生涯学習活動に関わっていますか?

- | | |
|------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> ①仕事として 19 | <input type="checkbox"/> ②ボランティアとして 8 |
| <input type="checkbox"/> ③参加者として 2 | <input type="checkbox"/> ④これまで関わったことがない 7 |

【3】本コンファレンスは全体を通じて、今後障害者の生涯学習活動に取り組むにあたり、参考になる内容でしたか？

- ①大変参考になった 18 ②参考になった 18
③あまり参考にならなかった ④参考にならなかった

【4】本日参加されたプログラムの内容について、感想やご意見をお聞かせください（自由記述）

- ・事例報告で感銘を受けた。春日井ドリームサッカーフェスティバルの伊藤貴治さんの活動に感動した。
- ・いろいろな取り組みが聞けて、おもしろかったです。田中良三先生が言われていましたが、私たちは必要に応じて活動を作ってきたこと、最近政策化がはじまっていることを考えると、歴史は動いているなと思いました。
- ・障害者のための生涯学習活動がある事自体を知らなかったのが、大変勉強になった。地域によって取り組みに差がある事も分かった。
- ・記念講演の金澤泰子様のお話が大変良かったです。
- ・それぞれの方がもっている繋がりやスキルなどをうまく生かしながら、活動をされていると感じました。
- ・事例の発表がとても良かった。
- ・いろいろな角度から障害者の生涯学習について学ぶことができました。当事者の方の発表も多く、Nothing About us without us の理念を感じました。なお、オンライン参加でしたが、金澤翔子さんの席上揮毫も会場の雰囲気伝わってきて、大変良かったです。
- ・具体的な取り組みについて知れたことで大変参考になりました。障害当事者の声も聞けて良かったです。
- ・訓練主義ではなくいかに主体性を育むかが大切であることがわかった。
- ・生涯教育というポイントに関しては、スポーツであったり、学校であったりの取り組みは良いと思ったが、そもそもの前提として障害者と健常者を分けて考えていることにひっかかった。障害者のみの大学であったり、特別支援学校の話もよく出てきたが、それに対してはインクルーシブ教育を目指し、なおかつ生涯教育についてもっと考えていきたい。
- ・金澤翔子さんの揮毫は感動的だった。金澤泰子さんの講演は考えさせられるものがあった。
- ・金澤翔子さんの書がよかった。
- ・半日の参加なのですが、有意義な内容でした。
- ・各市の取り組みは参考になった。
- ・"金澤翔子さんの書やパフォーマンスに元気づけられ、翔子さんのお母様のこれまでの苦労や乗り越えられてきた内容に元気づけられました。
- ・生涯学習を進めていく中で、切れ目のない支援をするため、それぞれの年齢ごとに関わっていく支援者や団体の連携の大切さを改めて学びました。
- ・障がい者の支援活動の重要性を痛感した。縦割り行政による支援だけでは非常に不十分な結果しか生まれないのではという気がします。社会へ出てからが寧ろ重要であると思った。

- ・金澤翔子さんの席上揮毫と泰子さんの講演

まずは、金澤翔子さんの席上揮毫は圧巻でした。その緊張感と迫力に圧倒されました。できあがった作品にも感銘しました。今日はこれだけでも十分という気持ちになりました。そのあとのマイケルに扮してのブレイク・ダンスは先ほど揮毫をしていた方と同じとは思えませんでした。パブリカも雰囲気を変え笑顔がとてもよかったです。静と動の絶妙なバランス感覚が最高でした。どちらも大好きだということが伝わってきました。金澤泰子さんの翔子さんを出産してからの話しにも引きつけられました。高齢者出産である程度は覚悟されたとはいえ、ダウン症であることが分かった時はどれほどショックであったことか。当方も障害のお子さんをもつ親御さんと夜通し話をしたことが何度もあります。やはり、子どもと一緒に死のうと思ったという話しはお聞きすることがあります。それほどつらいところから、障害のお子さんを育てようと気持ちにもっていく大変さがよく伝わってきました。やはり泰子さんが書家でそれ以外はできないと述べられていましたが、それが良かったのかもしれない。専門家から集中して教育を受けることで、翔子さんが持っていた才能が開花したのかもしれません。それは、小学校3年まで楽しく生活していたが、4年生では朝から晩まで般若心経を楷書で書き続ける修行のような生活は大変ではあったが、翔子さんにとっては現在の書家としての基礎をしっかりと作ることができた良い機会だったとお話しに納得しました。また、現在一人暮らしをしているが地元の商店街の方と仲良くなり、協力をえながら生活していると聞き人柄の良さも功を奏しており、泰子さんの翔子さんにあわせた育て方をしていたと感じた。とても中の良い親子にうらやましさを感じました。

- ・見晴台学園大学の事例紹介

障害児を対象としたフリー・スクール。子どもに合わせた学校。長期間の高等教育の保障。をスローガンにゆっくり育ち力をつけていくタイプの子どもだからこそ、より長く学ぶ機関が必要であるとの考え方に共鳴しました。また、研究論文発表会では、自分の好きなことをやる、アイデンティティーを大切にすることの重症性を感じた。事例の中で書いたり決めたりするのが得意でない方が、大好きがスマートフォンで撮った写真をテーマにその時の気持ちをまとめていくという発表には驚いた。3000枚もの写真と向き合うことで、自分自身とも向き合えたのではないかととても素晴らしいアプローチで指導者の思いも感じる事ができた。

- ・町田市の飛び立つ会の事例紹介

仲間と作詞作曲した歌を発表するわかそよコンサートで登場した青年の話が感銘を受けた。一人暮らしをするために探した場所が、現在勤めている会社から遠いので、長年勤めた会社を辞めて新しい会社に勤めだした青年。でも勤めていた会社では一人で紙漉きをしていて、彼がいなくなると紙漉きする人がいなくなってしまう。そして、実は紙漉きはとても大好きが仕事である。彼は相談して週2回は元に会社に通り紙漉きを続けることになった。なんて素敵な生き方をしているのか。それを支えているのがとびたつ会の仲間たちとわかそよコンサートなんだと実感した。

- ・田中先生の発言

学校を卒業してからの学ぶ場や居場所・繋がりの方が急になくなる現状とそれでも金澤泰子さんの30年前と比べれば、大きく世の中が変わってきているというところが印象に残りました。

- ・文部科学省の方が、障害者の生涯学習を推進しようとしていることが、わかり良かった。
- ・重症児の生涯学習の取り組みを知ることができ、とても参考になった。

7. コンファレンス

- ・一過性に終わらず、東京都の事例の様に長く続く体制を作らなければならないと感じました。
- ・こちら側の提案よりも、東京都の様な取り組みの様に、自分たちで話し合い、考えて実していく方が（環境、支える人は必要）本人たちが生き生きと長く続けられるように感じ、とても勉強になりました。
- ・瀬戸市、春日井市の成果報告、金澤翔子さんの席上揮毫、泰子さんの講演、3つの地域の事例報告、それぞれが素晴らしい発表でした。
- ・親の立場から、特に金澤泰子さんのお話は胸に迫る内容でした。障害のある子を授かった時の絶望感から、今の幸せに至るまでの過程を沢山のエピソードをお話して下さい、これからの子育てに大変勇気もらいました。また春日井市の生涯学習実践研究講座を継続して行ったり、他の地域でも実施出来ると思います。
- ・事例報告で、苦労された事についての話があまり聞けなかったのが残念でした。
- ・立ち上げた時に困った事やスタッフの集め方など、これから生涯学習を始める地域で参考になると思いました。
- ・大変参考になった。広域ブロック毎の事例発表会なので、何かすぐ変わるものでは無いと思いますが、今の社会が進むべき方向性が示されたと思います。
- ・瀬戸市のポッチャ大会の取り組みや春日井市の余暇活動のサッカーなど卒業後、地域の方と何か取り組める事があるといいと思いました。
- ・支援学校卒業後のワークアンドライフバランスまで考えた事が無かった、と言うのが偽らざるところでした。
- ・実際の障害者の活動の様子が見えてくる実践発表は、わかりやすく印象に残った。
- ・春日井市と瀬戸市における取り組みについて理解することができました。コロナ禍であっても活動を続けることの大切さと皆さまの努力を感じ、自分自身もできることを一つずつ取り組んでいきたいと思いました。
- ・長時間で参加をためらいましたが、金澤翔子さんのパフォーマンスが見れてよかった。
- ・子供達にも見せてあげたかった。
- ・身近な地域の取り組みを知り、金澤泰子氏のお話で母親としての想いも知ることができ、とても豊かな時間でした。これからのお子さまやご家族さまやご支援をされる皆さまとの関わりにかしたいと思いました。

【5】その他、プログラム全体を通じてお気づきになったことがあれば、お聞かせください (自由記述)

- ・一日中素晴らしい研修でした。
- ・オンラインで視聴できたのが本当に助かりました。
- ・できる人が、できることから始めていくことが大切であると感じました。無理をすると、誰かやどこかに負担がかかることになり、長続きしないと思います。今ある活動を少し広げることで、障がい者の方が参加しやすくなるような状況になれば一番良いと思います。
- ・オンラインからも意見が出るとよかったです。
- ・金澤さんのパフォーマンスはとても感動した。楽しかった。

7. コンファレンス

- ・とびたつ会松田氏の上映した歌唱映像は1曲でよい。パネリストの討論をききたかった。
- ・リモート参加により参加する人数が増えればよい。
- ・障がいを持つ当事者や家族などの人にとって、活動事例等の話を聴くことは、自身に引きつけて希望が持てたり、安心を感じられたりする機会となることに気付いた。
- ・トイレ休憩を入れた方がよいと思います。
- ・毎年、感銘を受ける事例報告があり、是非継続してほしい。
- ・見晴台学園のことがわかってよかった。
- ・午後からが、盛り沢山過ぎた感あり。
- ・金澤翔子さんの席上揮毫+母親の講演の後、先進地域の事例報告が愛知県を含め3つは多かった。春日井市の講座にも取り上げられた見晴台学園の取り組みは無くてもよかった。
- ・様々な地域、立場の方々の発表を拝聴することができ、知見を深めることができよかったです。
- ・どんな方々が参加されたか分かりませんが、たくさんの方に知っていただけるといいなあと思いました。

【6】企画運営・会場設営（スタッフ・資料等を含む）について、感想やご意見をお聞かせください（自由記述）

- ・参考になったので、知人に見せました。
- ・パソコンの画面でも、資料と会場が切り替わって映されて、見やすかったです。
- ・資料のおかげで会の趣旨もハッキリ分かり理解しやすかったです。
- ・席上揮毫、講演、舞台上での発表、オンラインでの発表と、様々な内容を1日で行うということで、準備が大変だったのではないかと拝察します。ありがとうございました。
- ・チラシにQRコードがあって、フォーム申込みなのがよかった。
- ・対面とオンラインという難しい運営を混乱なくすすめていただけて感謝しています。
- ・コロナ禍困難ではあるが、収束したら是非、分科会の開催をお願いします。
- ・コロナ禍の中、色々配慮をして頂き、開催して頂いた事は感謝しております。ホームページにアップして頂いた事で、来ることができない学校関係の方に周知しやすかったので有り難く思いました。
- ・コロナ感染拡大の中、コンファレンスを開催するために大変だった事と思いますが、開催日前日、会場参加者にオンラインでの参加も可能という案内メールを下さり、参加者に対しての心配りをありがとうございました。
- ・生涯学習の内容なので文科省管轄ですが、当事者方々は福祉サービスを使って生きている方々なので、参加者募集は厚生労働省の福祉部門から下部組織に周知、出席者の依頼をするべきです。特に、最近は知的障害者の生活をコーディネートするケアマネジャー的なサービス支援相談員が公的に存在するので、ここのスタッフの方々には必須の内容だったと思います。オンラインで福祉関係者がどれだけみていたのかわかりませんが、福祉関係者が見ていなかったら田中先生の言う縦割り行政の弊害だと思います。
- ・金澤翔子さんの書道やお母様の記念講演が良かったです。
- ・費用が発生しないことを逆手にとって、障がい者雇用してる事業所や作業所の名刺広告のようなページが資料にあっても参考になるのでは？

- ・コロナへの感染者増大のこの時期に開催するにはご苦労があったと思う。
- ・オンラインと対面両方で参加できる形は良かった。
- ・質問では、オンラインの参加者からも取り上げる形で良かった。
- ・申込期限が、オンラインは早くべ切っていたのがぎりぎりでわかり慌てた知り合いがいた。オンライン参加者に資料送付のためだと思うが、申込期限を二通りはっきり記載してもらえると助かった。
- ・コロナ禍で準備などご苦労があったと拝察いたします。このような中で学び知る機会をいただけて有難く思いました。
- ・コロナ禍で本当に開催されるか心配でしたが、開催できて良かったと思います。
- ・コロナ禍でご準備も大変でしたと思います。このような機会をご用意いただきありがとうございます。

【7】今後、本コンファレンスで取り上げて欲しいテーマ・課題をお聞かせください（自由記述）

- ・二次障害について
- ・義務教育後から福祉への接続について
- ・障害のある人の生涯学習を推進する体制づくり
- ・金澤泰子さんと翔子さんの人生について
- ・介護を取り上げて欲しい。
- ・近隣の住人との交流、支援の和を広めること
- ・障害者スポーツも生涯学習のひとつだとおもうので、取り上げてほしい。
- ・各地域の実践研究をもっと知りたいと思います。
- ・知的障害者は発議が難しいので、彼らにとって明るい未来が保証される内容を健常者が聞き取り、発案しなければと思います。
- ・障がい者は、地域で健常者との「共生」が盛んに言われているが、まさに交わることによって、紆余曲折を含めての当事者の正直な思いが聞ける場があるといい。当事者が卒業してみても、それまでの園や学校でのよくも悪くも当時の思いが聞けるといい。
- ・ひとりの人生をみたとときに、各ステージへの移行時期で途切れることのない支援についての必要性や工夫をテーマにしていただけたらと思いました。

【8】障害者の生涯学習の推進・学びの場づくりなどについて、今後、必要なことは何だと思えますか？（自由記述）

- ・共に学び生きる共生社会の実現のために、本日の報告のような事例がさらに実践されると良い。ありがとうございました。
- ・当事者の方が、まずは情報にアクセスしやすくするために、自治体が主体となって広報に載せるなどして、それが一般の人にとっても当たり前の社会になれば良いなあ、と思いました。
- ・学校卒業後の生涯学習をする場、環境づくりと情報の連絡
- ・生活圏内で気軽に立ち寄れる場作りと、来てもらうために学生の時から親しんでもらう機会作り。
- ・仲間を増やしたいなと思っています。

- ・関係団体のみならず、地域が一体となって取り組む。
- ・行政が中心となって進めていくことが大切だと思います。会場の確保、人員の確保など、ボランティアだけでは成り立たないと思います。きちんと予算をとり、対価を支払うことで、やりがいも出てくると思います。ボランティアも有償にするべきです。
- ・会場でも話題になった移動手段の充実
- ・落ち着いた議論
- ・障害者やその家族の意見を反映した講座の企画が必要と感じた。
- ・ボランティアの育成。
- ・障害者が希望していることを把握すること。一緒に考える機会をつくること。
- ・公民館などの生涯学習施設は、障がい者が生涯学習サービスを利用することを、これまであまり意識してこなかったし、障がい者も公民館の講座等を受講することを意識してこなかったのではないかな。必要なのは、相互理解を進めることだと考える。
- ・生涯学習の機会をもっと増やす必要があると思います。
- ・障害がある方々と関わる関係機関や地域等との連携
- ・西部ふれあいセンターの中にも、障がい者の方が、気軽に立ち寄れる場所を作る。健常者も含めた生涯学習が必要だと思います。一緒に学ぶ場を作る必要があると思います。
- ・まずは、コロナ禍が落ち着き、直接の繋がりが、安心して持てないと基本的には上手くいかないのではないかな。その上での直接体験が大切になるように思います。
- ・財政基盤のある福祉型専攻科による学校から社会への移行期の生涯学習の充実
- ・当事者の方や、保護者の方が声を沢山上げないとなかなか変わらないと思いますが、周りの方も分からないなりに当事者や保護者の方の気持ちを想像したり、アンケート等を活用して場を作っていくことが必要だと思いました。場を作ったら、当事者の方の意見をじっくりと聞き、実現できるように環境づくり（支える人も含め）をしていく事も大切に感じました。
- ・歌でもあったように、1人1人の大切なご本人の人生を実りあるものにするために陰ながら支えていきたいとも思いました。
- ・行政が主体となり、予算をつけて障害者の生涯学習を推進していくこと！
- ・継続して実施していくためにも、予算は必要だと思います。
- ・行政に、情熱を持って障害者の生涯学習を推進してくれる職員がいるかどうかにも必要な要素かもしれませんが…
- ・担当者が代わっても、引き継いでくれる人を育てる事も必要です。
- ・毎年、春日井市のような『障害者の生涯学習研究講座』を開催し、人材を育成する事が出来れば…学校卒業後は働く事と同じように余暇が大切だと頭ではわかっていたのですが、あっと言う間に高等部の3年間は過ぎてしまいました(最後の1年間はコロナで楽しい事も少なかったです)高等部では卒業後の事を考える授業がもっと必要だと思います。地域の公民館でどんな生涯学習があるか親も知る必要がありますが、参加するにはかなりハードルが高いです。行政主導の障害者の生涯学習があれば参加しやすいと思います。

7. コンファレンス

- ・知的障害者の外出支援のサービスが必要です。地元の学校への登校の見守りから休みの日の自力での外出の時などで、助けが必要です。進学の際に、名古屋市は外出支援サービスがあると聞きましたが、会場の発言のとおり、春日井市にはそれが無いようです。これが無いと一人で勉強に行けない人も一定数いそうですよ。障がい者の母親が就労しにくいのもこれらのサービスがないからだと思います。
- ・一人ひとりに合った教育と障がい者だけ束ねない社会生活。
- ・幼いころからの地域での交わり
- ・まずは知ること、触れ合うことが第一歩だと思います。
- ・近くで参加しやすい場所
- ・学校卒業後に誰もが行きやすい場所
- ・在校生でも参加できるなど
- ・まずは当事者の方のことを知ること、共に過ごすことから始まると思います。

8. アンケート調査

今年度、文科省の事業を進めるにあたって、Nothing about us without us!（私たち抜きで私たちのことを決めないで）の理念を大切にしたいと考え、春日井市内にある春日台特別支援学校、春日井高等特別支援学校の在校生及び卒業生、春日井市肢体不自由児・者父母の会、手をつなぐ育成会、市内の障害者計画相談員のご協力を得てアンケート調査を行った。

アンケートの調査方法は、紙媒体による回答方法、QRコードを読み取ってSNSから回答してもらう方法の2種類で行った。

アンケートには、教職員用、保護者用、相談員用にそれぞれ依頼文をつけた。また、春日台特別支援学校、春日井高等特別支援学校の両校では、HPの掲示板に掲載してもらったり、同窓会に情報を流してもらったりしてアンケートのご協力を呼び掛けた。

次ページに依頼文、アンケート調査内容を示す。

令和3年8月22日

各位

NPO 法人春日井子どもサポート KIDSCOLOR

代表 志村 美和

研究協力者：中部大学現代教育学部 伊藤 佐奈美

令和3年度 学校卒業後の学習活動に関するアンケートについて（依頼）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、私共 NPO 法人春日井子どもサポート KIDSCOLOR は「文部科学省 令和3年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を春日井市と協働で行うことになりました。本事業では、春日井市行政職員や福祉事業所職員を対象に「障害者の生涯学習実践研究講座」の開催、及び障害のある人を対象にサッカー、バドミントンのスポーツ講座を開催します。

また、特別支援学校、手をつなぐ育成会、肢体不自由児・者父母の会、精神障害家族会に関係するご本人、ご家族の皆様からの率直なご意見をいただき、春日井市における障害のある人の生涯学習プログラムの開発に取り組んでいきたいと思っております。

この生涯学習プログラムとは、具体的には、学校卒業後、地域社会で障害のある人たちが文化・スポーツなどの余暇活動を行える環境作り、卒業後ももっと学びたい、という人のための学習環境作り、友人や仲間と楽しく集まれる居場所作り等の実現を目指すものです。その実現のためには、「Nothing about us without us!（私たち抜きで私たちのことを決めないで!）」という理念の元、事業を進めたいと考えています。

つきましては、本アンケートにご協力いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。記入に際しましては、御自身で回答していただくのも結構ですし、お家の方や施設の方と一緒に回答していても結構です。皆さんの御意見をお待ちしております。

敬具

アンケートの回答はコチラから↓

URL:<https://forms.gle/szeBbAmfKkidAZEJ7>



NPO 法人春日井子どもサポート HP : <http://www.kids-color.info/>

連絡先：志村 美和 メールアドレス：kpnq908@yahoo.co.jp

令和3年8月22日

特別支援学校教職員 各位

NPO 法人春日井子どもサポート KIDSCOLOR

代表 志村 美和

研究協力者：中部大学現代教育学部 伊藤 佐奈美

令和3年度 学校卒業後の学習活動に関するアンケートについて（依頼）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、私共 NPO 法人春日井子どもサポート KIDSCOLOR は「文部科学省 令和3年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を春日井市と協働で行うことになりました。本事業では、春日井市行政職員や福祉事業所職員を対象に「障害者の生涯学習実践研究講座」の開催、及び障害のある人を対象にサッカー、バドミントンのスポーツ講座を開催します。

また、特別支援学校、手をつなぐ育成会、肢体不自由児・者父母の会、精神障害家族会に関係するご本人、ご家族の皆様からの率直なご意見をいただき、春日井市における障害のある人の生涯学習プログラムの開発に取り組んでいきたいと思っております。

この生涯学習プログラムとは、具体的には、学校卒業後、地域社会で障害のある人たちが文化・スポーツなどの余暇活動を行える環境作り、卒業後ももっと学びたい、という人のための学習環境作り、友人や仲間と楽しく集まれる居場所作り等の実現を目指すものです。その実現のためには、「Nothing about us without us!（私たち抜きで私たちのことを決めないで!）」という理念の元、事業を進めたいと考えています。

なお、アンケート記入に際しては、生徒さんに回答方法、項目内容の説明等お願いしなければならない箇所があると思います。お手数をおかけし大変恐縮ではございますが、生徒さんたちの率直なご意見が伺えるよう、何卒ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さらには、教職員の皆様にもアンケートをお願いしたく、日頃生徒さんたちを教育、支援なさっていらっしゃる視点からのご意見を頂戴できれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

NPO 法人春日井子どもサポート KIDSCOLOR HP : <http://www.kids-color.info/>

連絡先: 志村 美和 メールアドレス: kpqnq908@yahoo.co.jp

8. アンケート調査
令和3年11月1日

相談支援専門員 各位

春日井子どもサポート KIDSCOLOR 理事長 志村 美和
春日井市障がい福祉課長 中山 一徳
春日井市社会福祉協議会総合支援課長 石黒 丞

学校卒業後の学習活動に関するアンケートについて（依頼）

晩秋の候 皆様におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、春日井子どもサポート KIDSCOLOR と春日井市は春日井市における障がい者生涯学習プログラムの開発に取り組んでいます。プログラムの開発においては Nothing about us without us!（私たち抜きで私たちのことを決めないで！）の理念のもと当事者の皆様の意見を反映してまいりたいと存じます。

つきましては、担当する利用者様にアンケートに回答していただけるよう御案内及び回答するための御支援をお願いいたします。

御多忙中とは存じますが、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、手をつなぐ育成会、肢体不自由児・者父母の会及びむつみ会加入の方へは協力依頼済みです。

1 回答方法 インターネット回答

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScJz4PcuNT1Baq2w150mn4FMAj5DcKFVJp-TIEUsfuKh7Lx_g/viewform



2 締め切り 令和3年11月30日（火）

【問い合わせ先】 KIDSCOLOR 理事長 志村 美和
電話 090-4163-4365

令和3年度 学校卒業後の学習活動に関するアンケート

生徒用

★あてはまるものに○をつけてください。答えたくない問いは無回答で結構です。

★このアンケートで出てくる「学び」とは、勉強以外に、スポーツや文化・芸術等も含まれます。

【アンケートの記入者】 本人 本人（支援あり：保護者 教員） 保護者 教員
（何れかに○をつけてください）

(1) あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女

(2) あなたの学年を教えてください。

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

(3) 何か習い事はしていますか？

1. はい 2. いいえ
 ▶ *「はい」と答えた方、その習い事は何ですか？（ ）

(4) 何をしているときが楽しいですか？

1. 学校にいる時 2. 友達といるとき 3. 習い事をしているとき
 4. 家で好きな事をしているとき→それは何ですか？（ ）
 5. 特にない 6. その他（ ）

(5) 学校卒業後、仕事以外にやりたいことはありますか？（あてはまるものすべてに○）

1. もっと勉強がしたい 2. 趣味や好きなことを見つけたい 3. 学校時代にやっていたことを続けたい 4. 何か資格・免許をとりたい 5. 特にない 6. わからない
 7. 友だちと会いたい 8. その他（ ）

* 1～4に○をつけた人は（6）の質問へ

* 3に○をつけた方、どんな不安ですか？ ()

(11) やりたいことはお金を払ってでもやりたいですか？

1. 無料ならやりたい 2. 1回 500円くらいなら 3. 月に 2000円くらいなら
4. いくらかかってもやりたい 5. わからない 6. その他 ()

(12) 学校卒業後、働いたお金をどんなことに使いたいですか？ (あてはまるものすべてに○)

1. 勉強 2. 趣味・習い事 3. スポーツ観戦・映画(芸術)鑑賞 4. 買い物
5. 食事・喫茶店 6. 貯金 7. 旅行 8. 友人・家族と遊びに行く 9. ゲーム
10. わからない 11. その他 ()

(13) 学校卒業後、生涯に渡って学びを通して楽しみや生きがいを持てるまちづくりを目指すためにアンケートのご協力をお願いしました。最後に、こんな場所があったらいいな、こういうことができたらいいな、春日井市にはこれがなくて困っている、等何でも自由にご意見をお書きください。



ご協力ありがとうございました！

令和3年度 学校卒業後の学習活動に関するアンケート

卒業生用

★あてはまるものに○をつけてください。答えたくない問いは無回答で結構です。

★このアンケートで出てくる「学び」とは、勉強以外に、スポーツや文化・芸術等も含まれます。

【アンケートの記入者】 本人 本人（支援あり：保護者 支援者） 保護者
 （何れかに○をつけてください）

(1) あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女

(2) あなたの年齢を教えてください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上

(3) あなたが日中活動しているところはどこですか？

1. 自宅 2. 事業所 3. 会社 4. 病院 5. その他（ ）

(4) 今、何かスポーツ、趣味等習い事はしていますか？

1. はい 2. いいえ

▶ *「はい」と答えた方、それは何ですか？（ ）

(5) 何をしているときに楽しいですか？

1. 仕事をしている時 2. 事業所にいるとき 3. 習い事をしているとき

4. 家で好きな事をしているとき→それは何ですか？（ ）

5. 友だちといるとき 6. 特にない 7. その他（ ）

(6) 仕事以外にやりたいことはありますか？（あてはまるものすべてに○）

1. もっと勉強がしたい 2. 趣味や好きなことを見つけたい 3. 学校時代にやっていたことを続けたい 4. 何か資格・免許をとりたい 5. 特にない 6. わからない

7. 友だちと会いたい 8. その他 ()

* 1～4に○をつけた人は(7)の質問へ

* 5～8に○を付けた人は(9)の質問へ

(7) それは具体的に何ですか？(あてはまるものすべてに○)

1. 学校の勉強 2. お金の勉強 3. 防災の勉強 4. スポーツ ()

5. 書道 6. 茶道 7. 華道 8. 着付け 9. ダンス 10. 料理

11. 太鼓 12. 絵画 13. 音楽 () 14. カラオケ

15. パソコン 16. ゲーム 17. DIY 18. 伝統技能(芸能)

19. その他 ()

(8) (7)で○をつけたものをどんな方法でやりたいですか？(あてはまるものすべてに○)

1. 地域の公民館等施設の講座で 2. 本を読んで独学 3. インターネットで独学

4. 卒業した学校で 5. やりたいが、方法がわからない

6. 友達を誘って一緒にやりたい 7. その他 ()

(9) 地域の公民館等施設でいろんな講座(スポーツも含む)があることは知っていますか？

1. 知っている 2. 知らない 3. わからない

(10) 地域の公民館等施設の講座(スポーツも含む)に参加したことがありますか？

1. ある 2. ない 3. 行きたくない 4. 行けない→(理由)だから

5. その他 ()

(11) 地域の公民館等の講座(スポーツも含む)に参加したいと思いますか？

1. 思う 2. 思わない 3. 参加したいが不安がある 4. わからない

5. その他 ()

* 3に○をつけた方、どんな不安ですか？ ()

(12) やりたいことはお金を払ってでもやりたいですか？

1. 無料ならやりたい 2. 1回 500 円くらいなら 3. 月に 2000 円くらいなら
4. いくらかかってもやりたい 5. わからない 6. その他 ()

(13) 働いたお金をどんなことに使いたいですか？ (あてはまるものすべてに○)

1. 勉強 2. 趣味・習い事 3. スポーツ観戦・映画（芸術）鑑賞 4. 買い物
5. 食事・喫茶店 6. 貯金 7. 旅行 8. 友人・家族と遊びに行く 9. ゲーム
10. わからない 11. その他 ()

(14) 学校卒業後、生涯に渡って学びを通して楽しみや生きがいを持てるまちづくりを目指すためにアンケートのご協力をお願いしました。最後に、こんな場所があったらいいな、こういうことができたらいいな、春日井市にはこれがないで困っている、等何でも自由にご意見をお書きください。



ご協力ありがとうございました！

8. アンケート調査結果（15 頁以内）

8-1. 在学生

●アンケートの回答者

	n	%
①本人	172	80.8%
②本人（保護者支援あり）	5	2.3%
③本人（教員支援あり）	3	1.4%
④保護者	11	5.2%
⑤教員	3	1.4%
無回答	19	8.9%
合計	213	100.0%

（1）あなたの性別を教えてください。

	n	%
①男子	164	77.0%
②女子	49	23.0%
合計	213	100.0%

（2）あなたの学年を教えてください。

	n	%
①1年生	83	39.0%
②2年生	68	31.9%
③3年生	62	29.1%
合計	213	100.0%

（3）今、何かスポーツ、趣味等習い事はしていますか？

	n	%
①はい	40	18.8%
②いいえ	169	79.3%
無回答	4	1.9%
合計	213	100.0%

（4）何をしているときに楽しいですか？

	n	%
①学校にいるとき	52	17.6%
②友達といるとき	108	36.5%
③習い事をしているとき	14	4.7%

④家で好きな事をしているとき	100	33.8%
⑤特にない	6	2.0%
⑥その他	14	4.7%
無回答	2	0.7%
合計	296	100.0%

(5) 学校卒業後、仕事以外にやりたいことはありますか？【複数回答】

	n	%
①もっと勉強したい	25	7.5%
②趣味や好きなことを見つけたい	121	36.4%
③学校時代にやっていたことを続けたい	24	7.2%
④何か資格・免許を取りたい	71	21.4%
⑤特にない	17	5.1%
⑥わからない	16	4.8%
⑦友達と会いたい	46	13.9%
⑧その他	9	2.7%
無回答	3	0.9%
合計	332	100.0%

(6) それは具体的に何ですか？【複数回答】

	n	%
①学校の勉強	20	4.4%
②お金の勉強	25	5.6%
③防災の勉強	4	0.9%
④スポーツ	29	6.4%
⑤書道	4	0.9%
⑥茶道	1	0.2%
⑦華道	2	0.4%
⑧着付け	1	0.2%
⑨ダンス	28	6.2%
⑩料理	23	5.1%
⑪太鼓	8	1.8%
⑫絵画	18	4.0%
⑬音楽	43	9.6%
⑭カラオケ	28	6.2%
⑮パソコン	40	8.9%
⑯ゲーム	75	16.7%
⑰DIY	13	2.9%
⑱伝統技能（芸能）	4	0.9%

⑨その他	36	8.0%
無回答	48	10.7%
合計	450	100.0%

(7) (6)で○をつけたものをどんな方法でやりたいですか？【複数回答】

	n	%
①地域の公民館等施設の講座で	10	3.5%
②本を読んで独学	36	12.5%
③インターネットで独学	64	22.2%
④卒業する学校で継続して	10	3.5%
⑤やりたいが、方法がわからない	26	9.0%
⑥友だちを誘って一緒にやりたい	62	21.5%
⑦その他	18	6.3%
無回答	62	21.5%
合計	288	100.0%

(9) 地域の公民館等施設でいろいろな講座（スポーツも含む）があることは知っていますか？

	n	%
①知っている	50	23.5%
②知らない	77	36.2%
③わからない	48	22.5%
無回答	38	17.8%
合計	213	100.0%

(10) 地域の公民館等施設の講座（スポーツも含む）に参加したことがありますか？

	n	%
①ある	32	14.9%
②ない	150	69.8%
③行きたくない	10	4.7%
④行けない	4	1.9%
⑤その他	5	2.3%
無回答	14	6.5%
合計	215	100.0%

(11) 地域の公民館等の講座（スポーツも含む）に参加したいと思いますか？

	n	%
①思う	35	16.4%
②思わない	86	40.2%
③参加したいが不安がある	19	8.9%
④わからない	59	27.6%

⑤その他	3	1.4%
無回答	12	5.6%
合計	214	100.0%

(12) やりたいことはお金を払ってでもやりたいですか？

	n	%
①無料なら	64	30.0%
②1回500円くらい	30	14.1%
③月に2,000円くらい	22	10.3%
④いくらでも	21	9.9%
⑤わからない	63	29.6%
⑥その他	7	3.3%
無回答	6	2.8%
合計	213	100.0%

(13) 学校卒業後、働いたお金をどんなことに使いたいですか？【複数回答】

	n	%
①勉強	16	2.1%
②趣味・習い事	109	14.2%
③スポーツ観戦・映画鑑賞	60	7.8%
④買い物	122	15.9%
⑤食事・喫茶店	74	9.6%
⑥貯金	112	14.6%
⑦旅行	71	9.3%
⑧友人・家族と遊びに行く	92	12.0%
⑨ゲーム	91	11.9%
⑩わからない	8	1.0%
⑪その他	10	1.3%
無回答	2	0.3%
合計	767	100.0%

(14) 学校卒業後、生涯にわたって学びを通して楽しみや生きがいを持てるまちづくりを目指すためにアンケートのご協力をお願いしました。最後にこんな場所があったらいいな、こういうことができればいいな、春日井市にはこれがなくて困っている、等何でも自由にご意見をお書きください。(回答は原文)

01. 制服を自由に選ぶこと
02. 卒業しても友達とカフェで勉強したい。カフェで勉強しつつご飯も一緒に食べたい
03. ICカードやペイカードをもっと増やしてほしい
04. ゲーセン、がんショップ

05. バスができる場所があったらいいな
06. バスの本数が足りない
07. バスの本数を増やしてほしい
08. みんなが平和で争いのない公園
09. 点字、ベンチ
10. 模型屋船
11. 友情
12. 落合公園の噴水
13. 自然が楽しめるようなサイクリングロード
14. 春日井市にアウトレットや遊園地があったらいいと思う。
15. 文化祭や楽しい行事があったら自由行動したい、ピン止めで×を作るのがどうしてダメなんですか？友達とどうしてライン好感してはダメなんですか？文化祭でバンドをやるけど、みんなが好きな曲をやったら楽しいと思います。
16. E スポーツ専門学校があるとプログラマーを目指している人にはいいのかも
17. アニメグッズを販売する店があったらいい。市内の駅にホームドアがなくて困っている。
18. サッカーゴールがある公園が欲しい
19. フィットネスジムがあったらいい
20. プラモデル作りの講座
21. ミュージックビデオの撮影現場で個人シーンを撮ってもらいたい
22. みんなが共有して使える大きな公園
23. もう少し駅が家に近ければ、と思う。
24. 景色が眺められっように大きな橋があるといい
25. 趣味の授業
26. 卒業後できればバイクの免許を取りたいと思う。
27. 道を平たくしてください
28. 不自由な人と障害者専用のエレベーターを学校に設置してほしい
29. 風力発電
30. 母への贈り物としてたくさんのお金を渡せるように頑張りたい
31. 友だちと集合するときお金のかからない施設が欲しい
32. みんなで話せる憩いの場があったらいい。もし仕事に戸惑ったら相談できる場所があったらいい。駅のバスロータリーにエレベーターがなくて困っている。
33. イオンモールを作ってください
34. くつろげる場所が欲しい
35. ゴミが結構落ちているので、ごみが無くなるといいと思う
36. ゴミが落ちていない場所がいい
37. スポーツがいっぱい体験できる場所が欲しい
38. ツタヤ、マック、ゲオ、スタジオ、楽器店が欲しい
39. 近くに武道場を作してほしい

40. 趣味のアニメグッズが買える場所が欲しい
41. 春日井市の名物のサボテン料理をもっと広めてほしい
42. 春日井市はいいところ
43. 春日井市は交通の面で不便。バス・電車の本数が少ない
44. 落ち着いて同じ作業を時間制限は長めでできるだけゆっくりできる仕事
45. 色々なことにチャレンジしたい。喫茶店など一人で行動したい。
46. 障害を持つ人（特に大人）が行ける習い事やサークルはとても少ない。そういった親が立ち上げない限りあまりないと思う。行政の方でそのような事業を増やしてほしい。
47. お金がなしで遊べるところ
48. 友達とゆっくり話れる場所が欲しい
49. なし
50. わからない

8-2. 卒業生

●アンケートへの回答方法

	n	%
①Web	34	36.2%
②紙媒体	57	60.6%
③無効回答（全て空欄）	3	3.2%
合計	94	100.0%

●アンケートの回答者

	n	%
①本人	19	20.9%
②本人（保護者支援あり）	8	8.8%
③本人（支援員支援あり）	0	0.0%
④保護者	28	30.8%
無回答	36	39.6%
合計	91	100.0%

（1）あなたの性別を教えてください。

	n	%
①男子	60	65.9%
②女子	31	34.1%
無回答	0	0.0%
合計	91	100.0%

(2) あなたの年齢を教えてください。

	n	%
①10代	52	57.1%
②20代	26	28.6%
③30代	9	9.9%
④40代	2	2.2%
⑤50代	1	1.1%
⑥60代以上	0	0.0%
無回答	1	1.1%
合計	91	100.0%

(3) あなたが日中活動しているところはどこですか？

	n	%
①自宅	3	3.3%
②事業所	30	33.0%
③会社	54	59.3%
④病院	0	0.0%
⑤その他	2	2.2%
無回答	2	2.2%
合計	91	100.0%

(4) 今、何かスポーツ、趣味等習い事はしていますか？

	n	%
①はい	39	42.9%
②いいえ	52	57.1%
無回答	0	0.0%
合計	91	100.0%

(5) 何をしているときに楽しいですか？

	n	%
①仕事をしているとき	21	16.7%
②事業所にいるとき	18	14.3%
③習い事をしているとき	13	10.3%
④家で好きな事をしているとき	40	31.7%
⑤友だちといるとき	14	11.1%
⑥特にない	7	5.6%
⑦その他	11	8.7%
無回答	2	1.6%
合計	126	100.0%

(6) 仕事以外にやりたいことはありますか？【複数回答】

	n	%
①もっと勉強したい	6	5.0%
②趣味や好きなことを見つけたい	37	30.6%
③学校時代にやっていたことを続けたい	6	5.0%
④何か資格・免許を取りたい	14	11.6%
⑤特にない	14	11.6%
⑥わからない	17	14.0%
⑦友だちと会いたい	18	14.9%
⑧その他	6	5.0%
無回答	3	2.5%
合計	121	100.0%

(7) それは具体的に何ですか？【複数回答】

	n	%
①学校の勉強	5	3.4%
②お金の勉強	6	4.1%
③防災の勉強	2	1.4%
④スポーツ	14	9.5%
⑤書道	3	2.0%
⑥茶道	0	0.0%
⑦華道	0	0.0%
⑧着付け	0	0.0%
⑨ダンス	7	4.8%
⑩料理	8	5.4%
⑪太鼓	2	1.4%
⑫絵画	7	4.8%
⑬音楽	14	9.5%
⑭カラオケ	10	6.8%
⑮パソコン	6	4.1%
⑯ゲーム	19	12.9%
⑰DIY	1	0.7%
⑱伝統技能（芸能）	0	0.0%
⑲その他	3	2.0%
無回答	40	27.2%
合計	147	100.0%

(8) (6)で○をつけたものをどんな方法でやりたいですか？【複数回答】

	n	%
①地域の公民館等施設の講座で	4	3.7%
②本を読んで独学	5	4.6%
③インターネットで独学	10	9.3%
④卒業した学校で	7	6.5%
⑤やりたいが、方法がわからない	13	12.0%
⑥友だちを誘って一緒にやりたい	16	14.8%
⑦その他	6	5.6%
無回答	47	43.5%
合計	108	100.0%

(9) 地域の公民館等施設でいろんな講座（スポーツも含む）があることは知っていますか？

	n	%
①知っている	31	34.1%
②知らない	31	34.1%
③わからない	20	22.0%
無回答	9	9.9%
合計	91	100.0%

(10) 地域の公民館等施設の講座（スポーツも含む）に参加したことがありますか？

	n	%
①ある	17	18.7%
②ない	57	62.6%
③行きたくない	8	8.8%
④行けない	3	3.3%
⑤その他	1	1.1%
無回答	5	5.5%
合計	91	100.0%

(11) 地域の公民館等の講座（スポーツも含む）に参加したいと思いませんか？

	n	%
①思う	17	18.7%
②思わない	29	31.9%
③参加したいが不安がある	8	8.8%
④わからない	30	33.0%
⑤その他	1	1.1%
無回答	6	6.6%
合計	91	100.0%

(12) やりたいことはお金を払ってでもやりたいですか？

	n	%
①無料なら	24	26.4%
②1回500円くらい	14	15.4%
③月に2,000円くらい	10	11.0%
④いくらでも	8	8.8%
⑤わからない	25	27.5%
⑥その他	1	1.1%
無回答	9	9.9%
合計	91	100.0%

(13) 学校卒業後、働いたお金をどんなことに使いたいですか？【複数回答】

	n	%
①勉強	4	1.5%
②趣味・習い事	39	14.2%
③スポーツ観戦・映画鑑賞	19	6.9%
④買い物	43	15.6%
⑤食事・喫茶店	25	9.1%
⑥貯金	38	13.8%
⑦旅行	32	11.6%
⑧友人・家族と遊びに行く	38	13.8%
⑨ゲーム	21	7.6%
⑩わからない	6	2.2%
⑪その他	2	0.7%
無回答	8	2.9%
合計	275	100.0%

(14) 学校卒業後、生涯にわたって学びを通して楽しみや生きがいを持てるまちづくりを目指すためにアンケートのご協力をお願いしました。最後にこんな場所があったらいいな、こういうことができたらいいな、春日井市にはこれがなくて困っている、等何でも自由にご意見をお書きください。

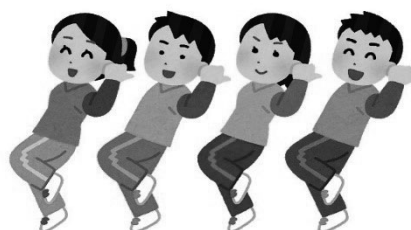
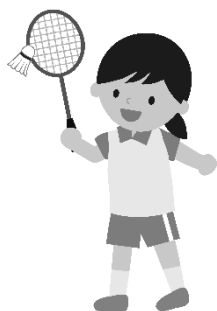
- A) 本人活動の会 10年程前、春日井市にも「21世紀の会」という本人活動の会があり、月1回高蔵寺ふれあいセンターで活動していた（ボーリング、カラオケ、調理、クリスマス会 etc）しかし、支援者（2,3人）の方の都合で中止になり、今は、金山駅集合して名古屋の「仲間の会」に参加している（コロナ禍で今は休止中）近場の春日井市にもこうした会があるといいと思う。②障がいのある人が集まれるカフェ
- B) グループホームに入所すると昼間に生活介護に行けるけど入所すると行けず施設内で刺激が少ないと思いき々な人に係りかわり、声掛け等してもらおうと言葉も増えたり言っている事も理解も増えると思います。グループホームが増えるといいなあと思います。今迄家にいた時みたいいろいろ出掛けたり刺

激がほしいです。何を書いていいかわからなかったです。

- C) コロナでいろんなことができなくなっていて、みんなと会えなくて残念。
- D) コロナ禍で今はどこにも出掛けられていません。いつもはヘルパーさんを利用して外出していますが、春日井市は団体の主催する（例えば、障がい者団体）行事には（ヘルパーさん利用の）移動支援の利用が認められていません。親の高齢化もあり、いろいろな行事等にも移動支援利用が認められるといいと思います。
- E) スポーツクラブとか RIZAP 春日井店作ってほしいです。
- F) なかなか学校の時のように出かけることができなくなり、同級生とも会えなくなってしまっています。
- G) ボウリングを教えてもらい大会に出られるようになりたい。
- H) わかりやすくウクレレやギターを教えてくれる人や、場所。安心して預けられるグループホーム
- I) 移動する手段としてバスが少ない。
- J) 医療的ケア児者が利用できるショートステイ等の場所を増やしてほしいです。
- K) 音楽等コンサート（クラシックから JPOP まで）に参加したいが、演奏が終わるたび、「終わったー」と大きな声が出てしまいます。声を出してもかまわないライブ等があれば参加したいです。
- L) 休日に重度の障がい児者が体を動かしながら楽しめる場所
- M) 言葉による意思表示が難しく本人の希望がうまくよみとれません。
- N) 自分だけでできる事が少ないので、知的障がいの重い人でもできるスポーツ等があるといいです。
- O) 習い事したいが、今は親が送迎できるができなくなった時でも通えるサポートしてくれる場所と人がいて欲しい。
- P) 習い事や障害者の集まりの案内等がネットで随所見られるといいなと思います。電話で直接問い合わせをするとなるとやめてしまう事が多いです。出来れば、健常者の人とスポーツや音楽を通じて自然に知り合う機会、場所が欲しいです。
- Q) 習い事を現在していますが、グループホームに入ったら、お月謝が払えないのと、開催場所へ行くことができなくなるなど思っています。親が生きている間は、月謝を払うこともできるし、送迎も可能です。親なき後、継続するにはなかなか難しいかなと考えます。身近なところにあって、継続できる楽しみがもてるといいなと思います。
- R) 宿泊施設
- S) 障がいの有る無しかかわらず、参加できる催しがみつからないです。
- T) 障害者ができる習い事やスポーツなどの情報収集の方法がわからない。また、必ず親等誰かがついていかなければ一人で行動することもできないし、指示を理解することも難しく、そのことを踏まえて参加させてくれるものがあるのかも知りたい。
- U) 職場で言葉遣いの悪い人がいて嫌がらせさせられることがあります。去年はコロナの影響で会社が長い休業が続いて大変でした。今のところは仕事があって毎日病気とケガと事故しないように頑張っています。
- V) 色々な人との交流が気軽にできる場所
- W) 先生に会えてうれしかった。

8. アンケート調査

- X) 卒業してからも気軽に友達等を作れるデイみたいな場所が欲しい。
- Y) 特にない
- Z) 本人は、中々自分やりたいことが見つからないので、親は、どうしたものか?と思っています。
- AA) 優しく受け入れてくれる場所



9. 総括

1. 文部科学省による学校卒業後の障害者の生涯学習支援政策と本事業の課題

文部科学省は、2016年12月14日、2017年度から、これまでの障害児の学校教育政策から、障害児・者の「生涯学習」政策へ転換を図ることを表明した（松野博文文部科学大臣「障がい者支援の総合的な推進に関する大臣講話」及び特別支援総合プロジェクト タスクフォース「文部科学省が所管する分野における障がい者施策の意識改革と抜本的な拡充～学校教育政策から『生涯学習』政策へ」）。そして、これらの基本方針をもとに、2017年度は「障害者学習支援推進室」を設置し、省内の関係予算を整理し、また、新たな政策方針の立案や学校卒業後における障害者の学びに関する有識者会議を立ち上げ、財源の確保など政策化に向けて基礎的整備を行った。そして、2018年度から、「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」等、新たな政策の具体化＝事業が図られ、継続・拡充されて今日に至っている。この政策推進の基になっているのが、2019年3月の有識者会議『障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―』と題する報告書である。ここでは、特に重視すべき視点として、(1) 本人の主体的な学びの重視、(2) 学校教育から卒業後における学びへの接続の円滑化、(3) 福祉、労働、医療等の分野の取組と学びの連携の強化、(4) 障害に関する社会全体の理解の向上、を挙げている。

これらの文部科学省による新たな障害者の生涯学習支援政策は、障害者権利条約や障害者差別解消法にもとづき、近年のわが国の実践状況を踏まえた画期的な政策である。

文部科学省の2021年度「実践研究事業」の「趣旨」は、「学校卒業後の障害者の社会参加・活躍を推進するため、これまでの民間団体主体の実践研究の成果の活用・横展開を図り、都道府県を中心とした地域コンソーシアム形成による持続可能な生涯学習支援体制を構築し、併せて、新たに市区町村の社会教育施設等を主な実施主体とした生涯学習プログラムを開発・実施し、多様な学びの場の拡充に取り組む。そのうえで、実践研究事業等の成果の普及・活用や実践交流等のためのブロック別コンファレンス、障害理解促進に向けた啓発フォーラム等を実施する。」ということである。春日井市では今年度文部科学省の委託事業を受け、上記の下線部分を課題に取り組んだ。

2. 初年度の四事業の成果と課題

春日井市における今年度の四つの事業の特徴は、次のようである。

第1点は、「障害者の生涯学習実践研究講座」（全7回）について

この講座では障害者の学校卒業後だけにとらわれず、乳幼児期から青年・成人期まで、各ライフステージに沿った、人間の一生涯を通しての育ちと学びについて取り上げた。当初、本事業は「障害者の学校卒業後」を対象にしたものであり、なぜ、乳幼児からとりあげるのかという疑問もあつ

た。しかし、ほとんどの受講者は、障害児はこれまでどこでどう学び育ってきているのかについての知識や理解がなく、突如、学校卒業後といわれてもなんのことかわからず、この講座によって、それまでの生き立ちや現状を理解することで今後、地域における学校卒業後の学びの必要や課題認識に繋がったことである。

本事業を通して明らかになったことは、地域における障害者の生涯学習支援員の養成にあつては、地域において障害者の生涯にわたって取り組まれている保育、教育、福祉、労働等の実践状況について理解し、関係者と連携し、学校卒業後の生涯学習支援について協働して取り組んでいくことが重要である。

第2点は、スポーツ講座について

長年、春日井市に根付いて活動を続けてきた民間のサッカークラブ「FC.FERVOR」が、この事業に参加し、新たに、市内の春日台特別支援学校、春日井高等特別支援学校、卒業生、保護者、中部大学伊藤ゼミの学生と連携・協働して、サッカーによる学校卒業後の障がい者の生涯学習の支援にむけて取り組んだ。

また、これまで地域で子どもたちや保護者でバドミントンに取り組んできた「にこにこ北城クラブ」が、本事業に参加し、子育てを終えた主婦や学生ボランティアの支援によって初めて障がい者と保護者を対象にした「バドミントン教室」に取り組んだ。

これらはいずれも、今後、春日井市におけるスポーツを通じた学校卒業後の障がい者の生涯学習を推進していく上で、その礎石を築くものであり、今後の充実・発展が期待できる。

第3点は、コンファレンスについて

春日井市の市長、教育長、市議会議長の参列のもとに、コンファレンスを開催できたことは、市の関係部課長をはじめとする職員のこれまでの本事業に対する並々ならぬご協力とご支援の賜物といえる。今後、春日井市政において本事業の趣旨・意義を踏まえた新たな展開に大きな期待をもつことができたといえる。

金澤翔子さんに「春」と揮毫していただいたことは、本市が「書のまち」として、今後、障がい者の生涯学習支援を推進していく上で、きわめて貴重な機会となった。

そして、国の政策説明、本事業の成果発表、そして全国の優れた取り組み報告など、今回のコンファレンスのように多彩に総合的に学べる催しは、今後とも継続的に実施していく必要がある。

第4点は、視察研修について

県内では、昨年度までの3年間本委託事業を受けた見晴台学園と見晴台学園大学を計6回にわたって実施した。学びの実際と生徒・学生・教員・保護者との交流・懇談は、ありのままの障害青年の日常の姿と各人の率直な思いに触れ、視察者の心を打った。また、県外では、東京都町田市の障がい青年学級（ひかり学級）とOBの青年学級（とびたつ会）にそれぞれ参加した。いずれも午前

10時の始まりから午後4時までの終わりまで、またその後職員との1時間ほどの懇談含め、視察研修は長時間にわたった。しかし、参加者は、このような長時間にわたる研修は初めてであったが、皆一様に、それが良かったという感想だった。というのは、障がい当事者一人ひとりを大切に取り組みうとすれば、このような1日ばかりになることなど、実際に参加してはじめて感得できることであり、障がい者の学びの実際に初めて触れて学ぶことができた、支援者の関わりかたについて学んだ、このように大変感銘を受けた視察研修の学びは、あらためて視察研修の大切さやあり方について考えさせられた。この様な障がい者理解と支援内容や方法についての原点に立った学びは、直に優れた実践を通して学ぶことの必要であり、直に接し、膝を交えて学ぶ貴重な機会として視察研修を位置付けることが求められる。

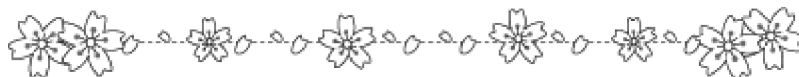
(編集後記)

本報告集は、委託事業1年間のまとめですが、実際には9ヶ月足らずの活動報告について、文科省の委託期間の最終日である3月10日までに、編集・執筆、発行までを短期間に終えなければなりません。これは、文科省への「報告書」とは別で、委託事業先である私たちが自らの意思で選択・作成したことなので、愚痴ることは筋違いだということになります。

私たちは、今日、全てデータで提供できるインターネットの便利な時代にあって、あえて紙媒体の報告集を出すことにしました。障がい者の生涯学習について、少しでも多くの人たちに関心を持っていただき、協力を仰ぐためには、多少面倒とはいえ、すぐに目と手に触れることができる「書物」が手近にあった方が便利だという考えです。旧い考えだと云われそうですが、ここ当面は、データと「書物」とのハイブリッド方式で、多様な人たちに情報を提供していきたいと思います。

私たちの些細な取り組みですが、より多くの人たちの目に止まることを願って！

(田中良三)



令和3年度文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」委託事業

『春日井市における民間団体との連携協働による障害者生涯学習プログラムの開発』
(報告集)

発行日 令和4年3月4日

発行者 NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR

連絡先 〒480-0304 愛知県春日井市神屋町 1759-1

TEL:0568-88-6873 (携帯) 090-4163-4365 志村あて

E-Mail:kidscolor2015@gmail.com 又は kpqnq908@yahoo.co.jp